

本章の趣旨:

復活と報いを証拠で確証すること

説明:

- ① アッラーから預言者(アッラーの祝福と平安あれ)が送られたのに、これらの多神教徒たちは、何について互いに尋ね合っているのか。
- ② 重大な知らせ(復活と審判)についてである。使徒に下されたクルアーンが、それについて語っているのである。
- ③ それについて、かれらは意見を異にしている。それは魔法か、詩歌か、占いか、あるいは昔の物語かと。
- ④ いや、かれらはその拒否の悪い結果を、いずれ知るだろう。
- ⑤ いや、いや、それを必ず知ることになるだろう。
- ⑥ われらは大地を、平坦にして、住みやすくしたのではないか。
- ⑦ また山々を、大地の安定のための杭にしたではないか。
- ⑧ われらはあなた方を種々の男女に創り、
- ⑨ 人々よ、また休息のためにあなた方の睡眠を、
- ⑩ あなた自身の恥部を隠すように、覆いのために暗い夜を、
- ⑪ そして生計のために昼を設けたではないか。
- ⑫ それからわれらは、あなた方の上に完璧な創造として、堅固な7層の天を設けて、
- ⑬ 光り輝やき、熱い灯明の太陽を置き、
- ⑭ われらは雲から豊かに雨を降らせ、
- ⑮ それによって種々の穀物や植物を生えさせ、
- ⑯ 互いに近くて木の枝が交差する、立派な園をもたらしたではないか。
- ⑰ 以上のような様々な恵みをその力量の証拠として言及してから、アッラーは復活と審判の日について言及される。これらを創造できる者は、その死後に復活させ精算することも容易なのである。かれは言う、創造されたものの峻別の日は定められ、それ以降その変更はない。
- ⑱ その日、二度目のラッパが吹かれると、あなた方は群をなして出て来る。
- ⑲ 天は割れ目が生じるが、それは開かれた数々の門のようで、
- ⑳ 山々は動かされて、散らばった塵の屑となり、蜃気楼のようになる。
- ㉑ 実に地獄は待ち伏せており、
- ㉒ 不正者たちが帰らせられる所、
- ㉓ かれらは何時までもその中に住む。
- ㉔ そこでかれらには炎の暑さからは涼しさもなく、気持ちよい飲物もなく、
- ㉕ 煮える湯と地獄の人々の膿(うみ)しかない。
- ㉖ かれらの不信仰と逸脱に対するのふさわしい報奨である。
- ㉗ 本当にかれらは、来世の清算を恐れていなかった。復活を信じていなかったのだ。それが恐ろしいならば、アッラーを信仰したであろうし、善行を重ねたであろう。
- ㉘ またかれらはわれらの預言者に与えた印を、全く嘘であるとした。
- ㉙ われらのかれらのしたこと一切を、天の帳簿に記して、計算してやろう。
- ㉚ 旋破りたちよ、だから味わえ、この永久の苦痛を。そればかりを増やしてやろう。

本諸節の功德:

- 創造に関するアッラーの完璧さは、復活に関するその力量の証左となる。
- 反抗は地獄行きの理由となる。
- 不信仰者には、罰は倍増すること。

سُورَةُ النَّبَاِ ٥٨٢ الْجُزْءُ الْقَائِمُونَ

سُورَةُ النَّبَاِ

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

عَمَّ يَتَسَاءَلُونَ ١ عَنِ النَّبَاِ الْعَظِيمِ ٢ الَّذِي هُمْ فِيهِ مُخْتَلِفُونَ ٣
 كَلَّا سَيَعْمُونَ ٤ فَبُكَرًا سَيَعْمُونَ ٥ أَلَمْ نَجْعَلِ الْأَرْضَ مَهْدًا ٦
 وَالْجِبَالَ أَوْتَادًا ٧ وَخَلَقْنَاكُمْ أَزْوَاجًا ٨ وَجَعَلْنَا نَوْمَكُمْ سُبَاتًا ٩
 وَجَعَلْنَا اللَّيْلَ لِبَاسًا ١٠ وَجَعَلْنَا النَّهَارَ مَعَاشًا ١١ وَبَدَعْنَا
 قَوْقُورًا سَبْعًا شَدَادًا ١٢ وَجَعَلْنَا سِرَاجًا وَهَاجًا ١٣ وَأَنْزَلْنَا مِنَ
 الْمُعْصِرَاتِ مَاءً ثَمَجًا ١٤ لِتُخْرَجَ بِهِ هِبَةٌ وَنَبَاتٌ ١٥ وَجَعَلْنَا
 الْأَقْفَادَ ١٦ إِنَّ يَوْمَ الْفَصْلِ كَانَ مِيقَاتًا ١٧ يَوْمَ يُفْعَلُ فِي الصُّورِ
 فَتَأْتُونَ أَفْوَاجًا ١٨ وَفُتِحَتِ السَّمَاءُ فَكَانَتْ أَبْوَابًا ١٩ وَسُيِّرَتِ
 الْجِبَالُ فَكَانَتْ سَرَابًا ٢٠ إِنَّ جَهَنَّمَ كَانَتْ مِرْصَادًا ٢١ لِلظَّلَاجِينِ
 مَعَابًا ٢٢ اللَّبِيثِينَ فِيهَا أَحْقَابًا ٢٣ لَا يَذُوقُونَ فِيهَا بَرْدًا وَلَا شَرَابًا ٢٤
 إِلَّا الْحَمِيمَ وَعَسَاقًا ٢٥ جَزَاءً وَفَاقًا ٢٦ إِنَّهُمْ كَانُوا
 لَا يَرْجُونَ حِسَابًا ٢٧ وَكَذَّبُوا بِآيَاتِنَا كِذَابًا ٢٨ وَكُلَّ شَيْءٍ
 أَحْصَيْنَاهُ كِتَابًا ٢٩ فَذُوقُوا فَلَنْ نَرِيذَكُمْ إِلَّا عَذَابًا ٣٠

知らせ章 582 部 30

إِنَّ الْمُتَّقِينَ مَفَازًا ﴿٣١﴾ حَدَائِقَ وَأَعْنَابًا ﴿٣٢﴾ وَكَوَاعِبَ أَتْرَابًا ﴿٣٣﴾ وَكَأْسًا
 دِهَاقًا ﴿٣٤﴾ لَا يَسْمَعُونَ فِيهَا لَغْوًا وَلَا كِدًّا ﴿٣٥﴾ جَزَاءً مِّن رَّبِّكَ عَطَاءً
 حِسَابًا ﴿٣٦﴾ رَبِّ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَمَا بَيْنَهُمَا الرَّحْمَنُ لَا يَمْلِكُونَ
 مِنْهُ خِطَابًا ﴿٣٧﴾ يَوْمَ يَقُومُ الرُّوحُ وَالْمَلَائِكَةُ صَفًّا لَا يَتَكَلَّمُونَ
 إِلَّا مَن أِذْنُ لَهُ الرَّحْمَنُ وَقَالَ صَوَابًا ﴿٣٨﴾ ذَلِكَ الْيَوْمُ الْحَقُّ فَمَن
 شَاءَ اتَّخَذِ إِلَىٰ رَبِّهِ مَآبًا ﴿٣٩﴾ إِنَّا أَنْزَلْنَاهُ قُرْآنًا عَرَبِيًّا يُعْزِرُ
 الْمُرَّةَ مَا قَدَّمَتْ يَدَاهُ وَيَعْفُو الْكَافِرَ يُبَلِّغُنِي كُنْتَ تُرَابًا ﴿٤٠﴾

سُورَةُ النَّازِعَاتِ ﴿٧١﴾

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ
 وَالنَّازِعَاتِ غَرْقًا ﴿١﴾ وَالنَّشِيطَاتِ نَشْطًا ﴿٢﴾ وَالسَّيِّحَاتِ سَبْحًا ﴿٣﴾
 فَالسَّبِّحَاتِ سَبْقًا ﴿٤﴾ فَالْمُدْبِرَاتِ أَمْرًا ﴿٥﴾ يَوْمَ تَرْجُفُ الرَّاحِفَةُ ﴿٦﴾
 تَتَّبِعُنَّ الرَّادِفَةَ ﴿٧﴾ قُلُوبٌ يَوْمَئِذٍ وَاجِفَةٌ ﴿٨﴾ أَبْصَرُهَا خَشِيعَةٌ ﴿٩﴾
 يَقُولُونَ أَيْنَ نَالِمُرْدُودُونَ فِي الْحَافِرَةِ ﴿١٠﴾ أَلَمْ نَكُنْ عَظْمًا مَّخْرَجَةً ﴿١١﴾ قَالُوا
 تِلْكَ إِذْ كُنَّا خَاسِرَةً ﴿١٢﴾ فَالْمَاهِي زَجْرَةٌ وَاحِدَةٌ ﴿١٣﴾ فَإِذَا هُمْ بِالسَّاهِرَةِ ﴿١٤﴾
 هَلْ أَتَاكَ حَدِيثُ مُوسَىٰ ﴿١٥﴾ إِذْ نَادَاهُ رَبُّهُ بِالْوَالِدِ الْكَافِرِ الْغَافِلِ ﴿١٦﴾

- ① 確かに主を畏れ、命令に服し禁止を守る者には、楽園という要望してきたものを得る、勝利の場所がある。
- ② 庭園やブドウ園がたくさんあり、
- ③ 同年令の女性たち、
- ④ またなみなみと溢れる杯。
- ⑤ そこでは無駄話や偽りは聞かない。互いに嘘をつくこともない。
- ⑥ これらはかれらへの恵みと慈悲の主からの報奨であり、十分な贈り物。
- ⑦ 諸天と地、そしてその間のすべてのものの主であり、現世と来世の慈悲あまねきお方、誰もかれに許可なくしては尋ねることはできない。
- ⑧ ジブリールと天使たちが整列して立つ日。慈悲あまねきお方から許しを得られた者であり、また正しいことを言う者、つまりアッラーが唯一であることを語る者以外には、仲介はできないのである。
- ⑨ それは確かにやって来る、真実の日である。だから誰でも懲罰からの救済を望む者は、主の喜ばれる善行に努める道を行く以外はないのである。
- ⑩ 人々よ、確かにわれらは、懲罰が近いとあなた方に警告した。その日、誰でも自分が以前にしたことを見るだろう。不信仰者は罰を逃れようとして、言う。ああ、われらが動物のように土塊になれたなら、よかったのに。審判の日動物たちは、土塊になれ、と言われるのである。

79. 引き抜く者章(アン・ナーズィアート)

マッカ啓示

本章の趣旨:

死と復活と召集と審判の描写による、復活と報いの否定者への警告

説明:

- ① 不信仰者の魂を手荒く引き抜く天使たちにかけて、アッラーは誓われる。
- ② 信者の魂をそっと引き出す天使たちにかけて、
- ③ アッラーの命令と共に天から地上になめらかに泳ぐ天使たちにかけて、
- ④ アッラーの命令を急いで実施する天使たちにかけて、
- ⑤ 僕たちの行動の委任など、アッラーの命令を実施する天使たちにかけて、誓う。それらすべてにかけて、人々が清算と応報のために復活すると誓うのである。
- ⑥ 最初のラッパで大地が振動するその日、
- ⑦ 次のラッパが続く。
- ⑧ 偽信者と不信仰者の心はその日は、恐れおののく。
- ⑨ 屈辱の影響がかれらの目に露わである。
- ⑩ かれらは言う。何と、われわれは復帰させられるのか、
- ⑪ 朽ち果てた骨になってしまったのに、われわれは復帰させられるのか。
- ⑫ かれらは言う。復帰させられたら、われわれは大損だ。
- ⑬ しかし復活は簡単だ。ただ天使の一吹きだけで、
- ⑭ かれらは、死んでいた後に、地上に現れるのだ。
- ⑮ 使徒よ、ムーサーとかれの主、そしてその敵であるフィルアウンの話は、あなたに届いたか。
- ⑯ 至高なる主がトウワーの清い谷に、かれ(ムーサー)と呼ばれた時を思い出すのだ。

本諸節の功德:

- アッラーを畏れることは、楽園に入る理由となる。
- 審判の恐怖は、正しい行為の原因となる。
- 不信仰者の魂を抜くのは、強く荒々しい。しかし信者のそれは、やさしく丁寧だ。

أَذْهَبَ إِلَىٰ فِرْعَوْنَ إِنَّهُ طَغَىٰ ﴿٥٧﴾ فَقُلْ هَلْ لَكَ إِلَٰهٌ إِلَّا أَن تَرْكِبَ ﴿٥٨﴾ وَاهْدِيكَ
إِلَىٰ رِيكِ فِتْحَتَشَىٰ ﴿٥٩﴾ فَأَرِنَهُ آيَةَ الْكُبْرَىٰ ﴿٦٠﴾ فَكَذَّبَ وَعَصَىٰ ﴿٦١﴾ ثُمَّ
أَدْبَرَ يَسْعَىٰ ﴿٦٢﴾ فَخَشِرْنَا دِي ﴿٦٣﴾ فَقَالَ أَنَا رَبُّكُمُ الْأَعْلَىٰ ﴿٦٤﴾ فَأَخَذَهُ
اللَّهُ بِكُلِّ الْأَخْرَجَةِ وَالْأُولَىٰ ﴿٦٥﴾ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَعِبْرَةً لِّمَن يَخْشَىٰ ﴿٦٦﴾
ءَأَنْتُمْ أَشْدُّ حَلْقًا أَمْ السَّمَاءُ بَدَلَهَا ﴿٦٧﴾ رَفَعَ سَمَكَهَا فَسَوَّيَهَا ﴿٦٨﴾
وَأَغْطَشَ لَيْلَهَا وَأَخْرَجَ ضُحَاهَا ﴿٦٩﴾ وَالْأَرْضُ بَعْدَ ذَٰلِكَ رَحْلَهَا ﴿٧٠﴾
أَخْرَجَ مِنْهَا مَاءَ هَاوَمَ وَعَمَهَا ﴿٧١﴾ وَالْجِبَالُ أَرْسَاهَا ﴿٧٢﴾ مَتَاعًا لِّكُم
وَلَا تَعْمَلُكُمْ ﴿٧٣﴾ فَإِذَا جَاءَتِ الطَّامَّةُ الْكُبْرَىٰ ﴿٧٤﴾ يَوْمَ يَتَذَكَّرُ الْإِنْسَانُ
مَا سَعَىٰ ﴿٧٥﴾ وَبُرْزَتِ الْجَحِيمِ لِمَن يَرَىٰ ﴿٧٦﴾ فَأَمَّا مَن طَغَىٰ ﴿٧٧﴾ وَءَاثَرَ
الْحَيَوةِ الدُّنْيَا ﴿٧٨﴾ فَإِنَّ الْجَحِيمَ هِيَ الْمَأْوَىٰ ﴿٧٩﴾ وَأَمَّا مَن خَافَ
مَقَامَ رَبِّهِ وَنَهَى النَّفْسَ عَنِ الْهَوَىٰ ﴿٨٠﴾ فَإِنَّ الْجَنَّةَ هِيَ الْمَأْوَىٰ ﴿٨١﴾
يَسْتَلُونَكَ عَنِ السَّاعَةِ أَيَّانَ مُرْسَلهَا ﴿٨٢﴾ فِيمَا نْتَ مِن
ذِكْرِهَا ﴿٨٣﴾ إِلَىٰ رِيكِ مُنْتَهَاهَا ﴿٨٤﴾ إِنَّمَا أَنْتَ مُنذِرٌ مَّن يَخْشَاهَا ﴿٨٥﴾
كَمَا أَنَّهُمْ يَوْمَ يَرَوْنَهَا لَمْ يَلْبَثُوا إِلَّا عَشِيَّةً أَوْ ضُحَاهَا ﴿٨٦﴾

سورة التاروت
٤٢ آياتها

- 17 アッラーは言われた。あなたはフィルアウンのところに行け。実にかれは不正で傲慢だ。
- 18 そしてかれに言ってやるがいい。あなたは不信仰と罪から清められたくないのか。
- 19 わたしはあなたを、主のところに導こう。そうすればあなたはアッラーを畏れ、その満悦を得る行いをし、不興を買うことを回避することができるであろう。
- 20 ムーサー（平安を）はそれからかれの最大の印である。手と杖の、かれが使徒であることの証明をフィルアウンに示した。
- 21 だがかれはそれらの印を拒否して、ムーサーの指導に従うことはなかった。
- 22 ムーサー（アッラーの平安を）がもたらした信仰に背き、アッラーに背き、真実に背反した。
- 23 フィルアウンは、ムーサーを圧倒するために、その民を集めた。そして言った。
- 24 そして言った。わたしはあなた方の最高の主である。だからほかの誰にも従わないように。
- 25 そこでアッラーはかれを懲らしめ、現世では海に沈め、来世では最も厳しい懲罰に合わせられる。
- 26 確かにフィルアウンに対する現世と来世の懲罰には、主を畏れる者への一つの教訓があり、その者たちが訓戒から受益するのだ。
- 27 拒否する人々よ、どちらが難しいと思うのか。かれがあなた方を創られたことか、あるいは天を建てられたことか、
- 28 それをかれは高く掲げ、それから整えられた。それにはヒビや割れ、あるいは欠陥はない。
- 29 日が沈めば夜を暗くなされ、また日が昇れば明るさを現出される。
- 30 天の創造後、大地を延べ広げ、そこに益を置かれた。
- 31 そこから溢れる泉として水を、また家畜の食べるものとして植物を現出させた。
- 32 また山々を地上にしっかり据え付けられ、
- 33 それらをあなた方と家畜が享受するものとされた。それほどに創造した者に、あなた方を復活させられないわけはない。
- 34 すべてを恐怖心で覆う、2回目のラッパが鳴ると、最後の審判が到来する。
- 35 その日、人々は現世で行った善行と悪行を思い出す。
- 36 また地獄の火は誰でも見えるように、持ち出される。
- 37 その時、錠を破って、逸脱した者、
- 38 また永久の来世よりは、この世の生活を好んでいた者は、
- 39 間違いなく地獄の火が避難所となり住まいとなる。
- 40 だが主のところに立つことを恐れた者、また禁じられた欲に対し心を抑えた者には、
- 41 間違いなく楽園が避難所となる。
- 42 使徒よ、かれらは最後の審判について、何時到来するのかと、あなたに問う。
- 43 あなたは知らないで、かれらに告げられない。またあなたの責務としても不適當である、というのはそれへの準備があなたの仕事だから。
- 44 その終末のことは、あなた的主だけがご存知。
- 45 あなたは、それを畏れる者への警告者に過ぎない。その者だけが受益するのだ。
- 46 かれらがそれを見る日、現世にいたのは、一夕か一朝に過ぎなかったように思えるのだ。

本諸節の功德:

- 招いた人へは、言葉やさしくすること。
- アッラーを恐れ、欲望を抑えることは、楽園入りの原因となる。
- 最後の日のことは、見えない世界のことであり、アッラーのみがご存知である。
- 天地創造の詳細は、アッラーが明かされること。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

الجزء الثامن

عَبَسَ وَتَوَلَّى ① أَنْ جَاءَهُ الْأَعْمَى ② وَمَا يُدْرِيكَ لَعَلَّهُ يَزَّكَّى ③
 أَوْ يَذَّكَّرُ فَتَنْفَعَهُ الذِّكْرَى ④ أَمَأَمِنَ اسْتَعْنَى ⑤ فَأَنْتَ لَهُ وَصْدَى ⑥
 وَمَا عَلَيْكَ الْآيَاتِي ⑦ وَأَمَأَمِنَ جَاءَكَ يَسْعَى ⑧ وَهُوَ يَخْشَى ⑨
 فَأَنْتَ عَنْهُ تَأَهَى ⑩ كَلَّا إِنَّهَا تَذْكِرَةٌ ⑪ فَمَنْ شَاءَ ذَكَرْهُ ⑫ فِي صُحُفٍ
 مُكَرَّمَةٍ ⑬ مَرْفُوعَةٍ مُطَهَّرَةٍ ⑭ بِأَيْدِي سَفَرَةٍ ⑮ كِرَامٍ بَرَرَةٍ ⑯
 قُتِلَ الْإِنْسَنُ مَا أَكْفَرَهُ ⑰ مِنْ أَيِّ شَيْءٍ خَلَقَهُ ⑱ مِنْ تَفْطَةٍ
 خَلَقَهُ فَقَدَرَهُ ⑲ ثُمَّ السَّبِيلَ يَسَّرَهُ ⑳ ثُمَّ أَمَاتَهُ فَأَقْبَرَهُ ㉑ ثُمَّ إِذَا
 شَاءَ أَنشَرَهُ ㉒ كَلَّا لَمَّا يَقْضِ مَا أَمَرُهُ ㉓ فَلَيَنْظُرَ الْإِنْسَنُ إِلَى طَعَامِهِ ㉔
 ㉕ أَنَا صَبَبْنَا الْمَاءَ صَبًّا ㉖ ثُمَّ شَقَقْنَا الْأَرْضَ شَقَاقًا ㉗ فَأَلْبَسْنَا فِيهَا
 حَبًّا ㉘ وَعَنَابًا وَقَضَبًا ㉙ وَزَيْتُونًا وَنَخْلًا ㉚ وَحَدَائِقَ غُلَابًا ㉛ وَفَجَاهَةً
 وَأَنْبَا ㉜ مَتَاعًا كَرِيمًا ㉝ وَلَا تَعْمَلُونَ ㉞ فَإِذَا جَاءَتْ الصَّاحَةُ ㉟ يَوْمَ يَفُورُ
 الْمَرْءُ مِنْ أَخِيهِ ㊱ وَأُرمِهِ ㊲ وَأُوبِيهِ ㊳ وَصَحْبَتَهُ ㊴ وَنَبِيَهُ ㊵ لِكُلِّ
 أَمْرٍ مِّنْهُمْ يَوْمَئِذٍ شَأْنٌ يُغْنِيهِ ㊶ وَوَجْوهٌ يَوْمَئِذٍ مُّسْفَرَةٌ ㊷
 ㊸ صَاحِكَةٌ مُّسْتَبْشِرَةٌ ㊹ وَوَجْوهٌ يَوْمَئِذٍ عَلَيْهَا غَبَرَةٌ ㊺

本章の趣旨:

クルアーンの伝道と、それに受益する者の榮譽、そしてそれに背く者の卑小さ

説明:

- ① アッラーの使徒(アッラーの祝福と平安を)が眉をひそめ、顔を背けた。
- ② 盲人のアブドッラー・ビン・ウンム・マクトゥームが、導きを求めてやって来たから。それは預言者(アッラーの祝福と平安を)が多神教徒たちの指導者を導こうとしていた時のことであった。
- ③ 使徒よ、この盲人は信仰して、その罪から清められるかも知れないことを、あなたに何が教えてくれるのか。
- ④ またはあなたからの諭しを聞いてそれを受け入れて、その教えはかれを益するかもしれないことを。
- ⑤ だがあなたのもたらした教えに何も必要性を感じずに、自分の財産で十分と思っている者に、
- ⑥ あなたは向かい、かれに関心を寄せている。
- ⑦ かれが自らアッラーに悔い改めて清めなくても、あなたに責めはないというのに。
- ⑧ 他方善を求めてあなたのところに、急いで頑張ってやって来た者で、
- ⑨ 主に対して畏敬の念を持っているのに、
- ⑩ あなたは指導者に気を取られて、かれを軽んじてしまった。
- ⑪ いや、いや、間違いなく、これは注意する人のための諭しなのだ
- ⑫ 誰でもアッラーを望む者がそれを学び、クルアーンにあることに留意するのである。
- ⑬ それは天使たちの下で、高貴な書巻にあり、
- ⑭ 高い所に安置され、汚れを知らず清浄なもの、
- ⑮ それは、天使たちの間の使いたちの手にあり、
- ⑯ かれらは主の下では誉れ高く、善行と服従行為を繰り返す。

- ⑰ 不信仰な人は呪われる、アッラーへの不信仰は何と根深いものか。
- ⑱ **かれ**は何から、かれを創られたのか。かれに地上で傲慢さを示す権利はなく、**かれ**への不信仰もあり得ない。
- ⑲ それは、一滴から。そして **かれ**はかれを段階的に創造された。
- ⑳ これらの段階の後に、その胎内からのかれの道を容易にされ、
- ㉑ やがてお決まりの時間を過ごせば、かれを死なせて墓場に埋め、復活の時を待つのだ。
- ㉒ それから御望みの時に、かれを清算と応報のために甦らす。
- ㉓ **かれ**はアッラーの**かれ**に対する諸権利をまっとうしたと思っているが、いや、**かれ**の命令をその不信仰者は果さなかった。
- ㉔ 不信仰の人間が口にする食物について考えさせよう。
- ㉕ 天からの強く豊かな雨にすべては始まる。
- ㉖ 次いで大地を切れ切れに裂いて、植物を芽生えさせる。
- ㉗ そこに成長させるものには、小麦やトウモロコシなどがある。
- ㉘ またブドウや新鮮な野菜も、それで家畜を養うこととなる。
- ㉙ オリーブやナツメヤシの木も、
- ㉚ 茂った庭園や樹木も、
- ㉛ 果物や家畜の牧草を。
- ㉜ あなた方とその家畜が享受するためだ。 ㉝ やがて復活の耳をつんざく大音響、つまり2回目の巨大な音がして、 ㉞ 人が自分の兄弟から逃れる日、 ㉟ 自分の母や父や、 ㊱ 自分の妻や子供たちから逃れる。 ㊲ その日、心配で誰も自分のことで手一杯。
- ㊳ 幸運な人々の顔は、その日輝き、 ㊴ アッラーの恵みで準備されたもののために、かれらは笑い、かつ喜ぶ。 ㊵ だが惨めな者たちの顔は、その日、埃にまみれる。

本諸節の功德:

- アブドッラー・ビン・ウンム・マクトゥームのことでアッラーが預言者を戒められたということは、クルアーンはアッラーからのものであることを証明する。
- 知識と導きを求める人々には、留意すること。
- 審判の日は厳しいもので、自分自身以外については気に留めなくなる。預言者たちさえも言う、自分のことを、自分のことを、と。

تَرَهَّقَهَا قَاتِرَةً ٤١ أُولَئِكَ هُمُ الْكَفَرَةُ الْفَجَرَةُ ٤٢

سورة التكاثر

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

إِذَا الشَّمْسُ كُوِّرَتْ ١ وَإِذَا النُّجُومُ انْكَدَرَتْ ٢ وَإِذَا الْجِبَالُ
سُيِّرَتْ ٣ وَإِذَا الْعِشَارُ عُطِّلَتْ ٤ وَإِذَا الْوُحُوشُ حُشِرَتْ ٥
وَإِذَا الْبِحَارُ سُجِّرَتْ ٦ وَإِذَا النُّفُوسُ زُوِّجَتْ ٧ وَإِذَا
الْمَوْتُودَةُ سُيِّمَتْ ٨ بِأَيِّ ذَنْبٍ قُتِلَتْ ٩ وَإِذَا الصُّحُفُ نُشِرَتْ ١٠
وَإِذَا السَّمَاءُ كُشِطَتْ ١١ وَإِذَا الْجِبَالُ سُعِرَتْ ١٢ وَإِذَا الْجَنَّةُ
أُزْلِفَتْ ١٣ عَلِمَتْ نَفْسٌ مَّا أَحْضَرَتْ ١٤ فَلَا أَقْسِمُ بِالْخَنَسِ ١٥
الْجَوَارِ الْكُنَّسِ ١٦ وَالْجَلِ إِذَا عَسَسَ ١٧ وَالصُّبْحِ إِذَا تَنَفَّسَ ١٨
إِنَّهُ لَقَوْلُ رَسُولٍ كَرِيمٍ ١٩ ذِي قُوَّةٍ عِنْدَ ذِي الْعَرْشِ مَكِينٍ ٢٠
تُرَآمِينٍ ٢١ وَمَا صَاحِبُكُمْ بِمَجْنُونٍ ٢٢ وَقَدْ رَآهُ بِالْأُفُقِ الْمُبِينِ ٢٣
وَمَا هُوَ عَلَى الْعَجِيبِ مُبِينٍ ٢٤ وَمَا هُوَ بِقَوْلِ شَيْطَانٍ رَجِيبٍ ٢٥
فَأَيْنَ تَذْهَبُونَ ٢٦ إِنَّ هُوَ إِلَّا ذِكْرٌ لِّلْعَالَمِينَ ٢٧ لَمَن شَاءَ مِنْكُمْ أَن
يَسْتَقِيرَ ٢٨ وَمَا تَشَاءُونَ ٢٩ إِلَّا أَن يَشَاءَ اللَّهُ رَبُّ الْعَالَمِينَ ٣٠

④① 暗黒が顔を覆う。

④② これらの者こそ、不信心な者で、背いてきた者たちである。

81. 巻き上げる章(アッ・タクウィール)

マッカ啓示

本章の趣旨:

堅固であった天地がバラバラになる復活の日の描写

説明:

- ① 太陽が集められて、その光が消える時、
- ② 星々が次々と落ちて、その光が消える時、
- ③ 山々がその位置より動かされる時、
- ④ かれらにとって最も貴重な財産である、妊娠して10か月の雌駱駝が放棄される時、
- ⑤ 様々な野獣が人間と共に集められる時、
- ⑥ 大洋が点火されて、火になる時、
- ⑦ 罪人は罪人と、信者は信者という風に、似た者どうしと一緒にいる時、
- ⑧ 生き埋めにされた女兒が、
- ⑨ どんな罪で殺されたかと問われる時、
- ⑩ 人の諸行が記されている天の書巻が、開かれて、誰もがその人の記録を読める時、
- ⑪ 羊の皮が剥がれるように、天が剥ぎ取られる時、
- ⑫ そして地獄が炎を上げる時、
- ⑬ 楽園が主を畏れる人に近づく時、
- ⑭ その時魂は、行ったそのすべての所業を知る。
- ⑮ われは誓う、隠れる諸星に。それらはいずれ現れる。
- ⑯ それらは軌道进行を走り、そして暁と共に身を隠すもの。それは、自分の住みかに戻るガゼルのようなもの。
- ⑰ 訪れる夜の初めと、明ける前の夜の最後にかけて、
- ⑱ 光を放つ暁にかけて。

⑲ 確かにクルアーンは、信頼される天使ジブリール(平安を)にアッラーが託されて、ムハンマド(アッラーの祝福と平安を)に下された啓示の言葉。

⑲ (ジブリールは)力があり、玉座の至高の主の御前で座につき、

⑲ 天でその住民に従われ、そして信頼されて啓示を運ぶ。

⑲ あなた方の伴侶ムハンマド(アッラーの祝福と平安あれ)は、その知性、信頼度、誠実さは知られた所で、かれは間違いではない。

⑲ あなた方の伴侶は、明るい地平線に、あのジブリールを創造された姿で見た。

⑲ あなた方の伴侶は、啓示を出し惜しまない。また占い師のように、報酬は求めない。

⑲ クルアーンは、アッラーの慈悲から追放された悪魔の言葉でもない。

⑲ それほど多くの証拠があるのに、あなた方は、それはアッラーからのものであることを拒否して、どの道を行くのか。

⑲ このクルアーンは、人間とジンに向けた訓戒であり、教説に他ならない。

⑲ それはあなた方の中、誰でも真実の道を歩みたいと望む者のためのもの。

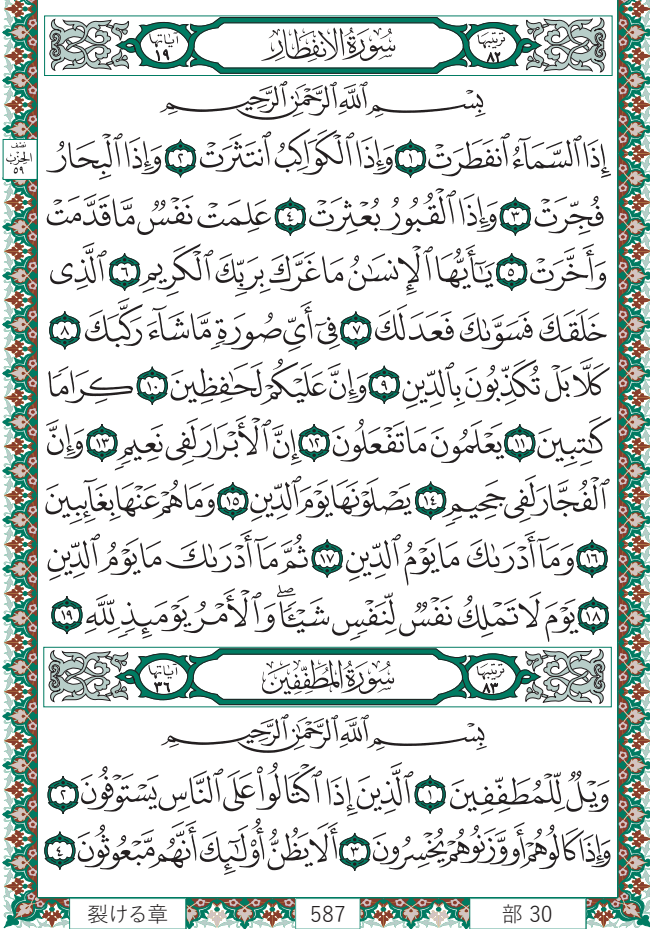
⑲ だが全存在の主、アッラーが御望みでない限り、あなた方は正しくあることや、その他何であれ、それを望むことも出来ない。

本諸節の功德:

- 善行と悪行で、似た者同士が集められること。
- 生き埋めにされた女兒が、生き埋めにした者について問われる、審判の日の重大さ。
- 僕的意思是、アッラーの意思に従うこと。

82. 裂ける章(アル・インフィタル)

マッカ啓示



本章の趣旨:

秩序だった創造の崩壊と、その状態や進路の変容による、審判の日の描写

説明:

- ① 天使たちが降りて来るために、天が分裂する時、
- ② 星々が次々落ちて来て、散らされる時、
- ③ 大洋が互いに開かれて、そして混ざり合い、
- ④ 土が掘り返されて、復活のため墓場が暴かれる時、
- ⑤ それぞれの魂は、既にしたことと、後にし残したことを知る。
- ⑥ 人間よ、猶予を与えられ懲罰を急がれなかったのは主の恵みであったが、それなのに何があなたを主から惑わせ、その命令を拒否させたのか。
- ⑦ **かれ**はあなたを無から創造し、形を与え、四肢の均整を取り、
- ⑧ どのような形態であれ、**かれ**の御心のままにあなたを創造された。あなたに恵みとして、ロバ、猿、あるいは犬の姿には造られなかったのだ。
- ⑨ 欺かれた者たちよ、事はあなた方が思っている通りではない。あなた方は報いの日を嘘であると言って、そのために努めていない。
- ⑩ 実際のところ、あなた方の上にはその行動を記録する天使たちがいて、
- ⑪ **かれ**らはアッラーの元で高貴な記録者として、
- ⑫ あなた方の所行を知って、あなた方の行動を記すのだ。
- ⑬ 審判の日、善行と服従に満ちた敬虔な者は、永遠の安楽の中にいる。
- ⑭ 不正な者は、その上で燃える火の中において、
- ⑮ 審判の日、かれらはそこで熱にうなされ、
- ⑯ そこから、逃れられない。永遠に居るのだ。
- ⑰ 使徒よ、審判の日が何であるかを、あなたに教えるのは何か。

- ⑱ 一体、審判の日が何であるのかを、あなたに教えるのは何か。
- ⑲ その日、どの魂も他の魂のために役立つものではない。その日、命令は、アッラー次第、好きなようにされる。そうするのは、**かれ**以外にはいないのである。

83. 量を減らす者章(アル・ムタッフィフーン)

マッカ啓示

本章の趣旨:

量を減らす者たちや嘘つき呼ばわりする者たちへの警告と、抑圧された信仰者たちへの慰安をしつつ、精算と来世での行き先における人々の状態を説明する

説明:

- ① 量を減らす者に、破滅と損失あれ。
- ② **かれ**らは人から計量して受け取る時は、目一杯に取り、
- ③ 相手のものの計測や重量のときは、損させる。これは預言者(アッラーの祝福と平安を)が移住した当時に、マディーナの人々のしていたことであった。
- ④ こういうことをする人々は、アッラーの前で復活させられることを知らないのか。

本諸節の功德:

- 真実に従わなくさせる自信過剰に対する警告。
- 強欲は商売人の悪徳。アッラーを畏れる人しかそこから安泰ではない。
- 審判の恐怖を想起することは、最も罪から遠ざけてくれるものの1つである。

لِيَوْمٍ عَظِيمٍ ﴿٥﴾ يَوْمَ يَقُومُ النَّاسُ لِرَبِّ الْعَالَمِينَ ﴿٦﴾ كَلَّا إِنَّ كِتَابَ
 الْفُجَّارِ لَنِي سَجِينٍ ﴿٧﴾ وَمَا أَدْرَاكَ مَا سَجِينٌ ﴿٨﴾ كِتَابٌ مَرْقُومٌ ﴿٩﴾
 وَيَلُومُ زِينَةَ الْمُكْذِبِينَ ﴿١٠﴾ الَّذِينَ يَكْذِبُونَ بِيَوْمِ الدِّينِ ﴿١١﴾ وَمَا يَكْتُوبُ
 بِهِ إِلَّا كُلٌّ مُعْتَدٍ أَثِيمٍ ﴿١٢﴾ إِذْ اتَّسَلَى عَلَيْهِ إِيْتَانَا قَالَ أَصْطِيرُ الْأَوَّلِينَ
 ﴿١٣﴾ كَلَّا بَلْ رَانَ عَلَى قُلُوبِهِمْ مَا كَانُوا يَكْسِبُونَ ﴿١٤﴾ كَلَّا إِنَّهُمْ عَنْ رَبِّهِمْ
 يَوْمَئِذٍ لَمَحْجُوبُونَ ﴿١٥﴾ ثُمَّ إِنَّهُمْ لَصَالُوا الْجَحِيمِ ﴿١٦﴾ ثُمَّ يُقَالُ هَذَا
 الَّذِي كُنْتُمْ بِهِ تُكَذِّبُونَ ﴿١٧﴾ كَلَّا إِنَّ كِتَابَ الْأَبْرَارِ لَنِي عَلِيَيْنِ ﴿١٨﴾
 وَمَا أَدْرَاكَ مَا عَلِيُّونَ ﴿١٩﴾ كِتَابٌ مَرْقُومٌ ﴿٢٠﴾ يَشْهَدُهُ الْمُقَرَّبُونَ ﴿٢١﴾
 إِنَّ الْأَبْرَارَ لَنِي نَعِيمٍ ﴿٢٢﴾ عَلَى الْأَرَاكِ يَنْظُرُونَ ﴿٢٣﴾ تَعْرِفُ فِي
 وُجُوهِهِمْ نَضْرَةَ النَّعِيمِ ﴿٢٤﴾ يُسْتَقُونَ مِنْ رَحْمَتِي مُخْتَمِينَ ﴿٢٥﴾ خِتْمُهُ
 مَسْكٌ وَفِي ذَلِكَ فَلْيَتَنَفَّسْ الْمُتَنَفِّسُونَ ﴿٢٦﴾ وَمِنْ آجَاهِهِ مِنْ
 تَسْنِيمٍ ﴿٢٧﴾ عَيْنًا يَشْرَبُ بِهَا الْمُقَرَّبُونَ ﴿٢٨﴾ إِنَّ الَّذِينَ أَجْرَمُوا كَانُوا
 مِنَ الَّذِينَ ءَامَنُوا يَصْحَكُونَ ﴿٢٩﴾ وَإِذَا مَرُّوا بِهِمْ يَتَغَامِرُونَ ﴿٣٠﴾
 وَإِذَا انْقَلَبُوا إِلَىٰ أَهْلِهِمْ انْقَلَبُوا فَكِهِينَ ﴿٣١﴾ وَإِذَا رَأَوْهُمْ قَالُوا
 إِنَّ هَؤُلَاءِ لَضَالُونَ ﴿٣٢﴾ وَمَا أُرْسِلُوا عَلَيْهِمْ حَافِظِينَ ﴿٣٣﴾

تسليمه
على يوم

- ⑤ 試練もあり畏怖もある、偉大なる日の清算と報いに、
 ⑥ その日、人間は全存在の主の御前に、清算のために立つ。
 ⑦ いや、死の後に復活はないと考えていたのは、そうではないのだ。不信仰者と偽信者ら背く者の悪行録は、大地の一番下での損失となる。
 ⑧ このスイッジーン(悪行録)が何かを、あなたに理解させるものは何か。
 ⑨ それは書き留められ、消失せず、増減もない。
 ⑩ 破滅と損失があるように、その日、嘘であると言ってきた者たちよ、
 ⑪ 現世の行動の総決算である審判の日を、嘘であると言ってきた者たち。
 ⑫ 誰も拒否できないこの日だが、これを嘘であると言ってきた者は、罪ある違法者に他ならない。
 ⑬ 使徒に下されたわれらの印が読誦された時、かれ(違法者)は、昔の物語だと言った。
 ⑭ いや、そうではない、かれらの取ってきた罪の行状が、その心を支配し、覆ってしまっ、従ってその心で真実を見たことがないのだ。
 ⑮ いや、まさにかれらは、その日、主に対して覆われて、かれを見ることはない。
 ⑯ 次にかれらは、地獄で焼かれ、灼熱に苦しむ。
 ⑰ 審判の日、そこで彼らは非難されて、預言者が告げたにもかかわらず、これが、あなた方が嘘であると言ってきたことだと告げられる。
 ⑱ いや、清算がないなどと考えていたのは違うのだ。敬虔な者の記録は、イッリーユーン(善行録)の中にある。
 ⑲ イッリーユーンが何であるかを、あなたに教えるものは何か。
 ⑳ それは書き留められ、消失せず、増減もない。
 ㉑ それぞれの天において、側近の天使たちがそれを立証する。
 ㉒ 審判の日、敬虔な者は、必ず安楽の中におり、
 ㉓ かれらは飾られた寝床の上から主を見つつ、素晴らしく目に快適なものを見渡す。
 ㉔ あなたはかれらの顔に享樂の表れと、その美しさや素晴らしさを見る。
 ㉕ かれらには召使たちから、封印された器の飲料が出される。
 ㉖ それは最後の一滴まで香りを出す麝香(じゃこう)。この素晴らしい褒美を求めることにこそ競争する者に、競争させよ。そのためには、アッラーの喜ばれることをして、嫌がられることはするのではない。
 ㉗ それにはタスニームの泉の水が混ぜられる。
 ㉘ それは天国でも一番高いところにあるもので、アッラーに近い者たちは、そのタスニームの泉から純粋なまま飲むが、それ以外の信者は他のものと混ぜて飲む。
 ㉙ 罪ある不信仰者たちは、信仰する者を笑い飛ばしていた。
 ㉚ そしてかれらが信者たちの傍を過ぎると、不信仰者は互いに目をやり、馬鹿にして楽しんでた。
 ㉛ 家族のところへ帰ると、不信仰なことを楽しみ、また信者のことを笑い草にした。
 ㉜ かれらにかれらムスリムを見かけると、これらの者は真実の道から迷っていると。というのは、かれらの先祖の教えを放棄したからである。
 ㉝ だがかれらを信者の監視者としてそのように言うために、アッラーはかれらを遣わされたのではない。

本諸節の功德:

- 罪の心に対する危険性。
- 審判の日、不信仰者は主を見ることができない。
- 信者を馬鹿にするのは、不信仰者の特徴の一つである。

فَالْيَوْمَ الَّذِينَ ءَامَنُوا مِنَ الْكُفَّارِ يَضْحَكُونَ ﴿٣٥﴾ عَلَى
الْآرَائِكِ يَنْظُرُونَ ﴿٣٦﴾ هَلْ تُوْبَ الْكُفَّارِ مَا كَانُوا يَفْعَلُونَ ﴿٣٧﴾

سُورَةُ الْاِنْشِقَاقِ ﴿٣٧﴾

بِسْمِ اللّٰهِ الرَّحْمٰنِ الرَّحِیْمِ

إِذَا السَّمَاءُ انْشَقَّتْ ﴿١﴾ وَأَذِنَتْ لِرَبِّهَا وَحُقَّتْ ﴿٢﴾ وَإِذَا الْأَرْضُ مُدَّتْ
﴿٣﴾ وَأَلْقَتْ مَا فِيهَا وَتَخَلَّتْ ﴿٤﴾ وَأَذِنَتْ لِرَبِّهَا وَحُقَّتْ ﴿٥﴾ يَا أَيُّهَا
الْإِنْسَانُ إِنَّكَ كَادِحٌ إِلَىٰ رَبِّكَ كَدْحًا فَمُلَاقِيهِ ﴿٦﴾ فَأَمَّا مَنْ أُوْتِيَ
كِتَابَهُ وَبِیْمِينِهِ ﴿٧﴾ فَسَوْفَ يَحْسَبُ حَسَابًا بَیْسِرًا ﴿٨﴾ وَيَنْقَلِبُ
إِلَىٰ أَهْلِهِ مَسْرُورًا ﴿٩﴾ وَأَمَّا مَنْ أُوْتِيَ كِتَابَهُ وَرَأَىٰ ظَهْرَهُ ﴿١٠﴾ فَسَوْفَ
يَدْعُو ثُبُورًا ﴿١١﴾ وَيَصْلَىٰ سَعِيرًا ﴿١٢﴾ إِنَّهُ كَانَ فِي أَهْلِهِ مَسْرُورًا ﴿١٣﴾
إِنَّهُ ظَنَّ أَنْ لَنْ يَحُورَ ﴿١٤﴾ بَلَىٰ إِنَّ رَبَّهُ كَانَ بِهِ بَصِيرًا ﴿١٥﴾ فَلَا أَقْسَمُ
بِالشَّفَقِ ﴿١٦﴾ وَاللَّيْلِ وَمَا وَسَقَ ﴿١٧﴾ وَالْقَمَرِ إِذَا اتَّسَقَ ﴿١٨﴾
لَتَرْكَبُنَّ طَبَقًا عَن طَبَقٍ ﴿١٩﴾ فَمَا لَهُمْ لَا يُؤْمِنُونَ ﴿٢٠﴾ وَإِذَا قُرِئَ
عَلَيْهِمْ الْقُرْآنُ انْزَعُوا لَابَسْجُودٍ ﴿٢١﴾ بَلِ الَّذِينَ كَفَرُوا يُكَدِّبُونَ ﴿٢٢﴾
﴿٢٣﴾ وَاللّٰهُ اَعْلَمُ بِمَا يُوعُونَ ﴿٢٤﴾ فَبَشِّرْهُمْ بِعَذَابٍ اَلِيْمٍ ﴿٢٥﴾

- 15) いやいや、アッラーは最初の創造のように、蘇生させるのだ。それどころか、主はいつもかれをお見通し。すべてを見ていて、応報されるのだ。
- 16) そこでわれは、落日の夕映えにかけて誓う。
- 17) 夜と、それが包むものにかけて、
- 18) また集まっては満ちる月にかけて。
- 19) 人々よ、あなた方は、必ず一滴から凝血へ、そして肉塊、それから生命、死、復活と、一段階から次の段階に登る。
- 20) それでも、かれらがアッラーと最後の日を信じないのはどういう訳か。
- 21) クルアーンがかれらに読唱されても、かれらが頭を下げてひれ伏そうとしないのは、どういう訳か。
- 22) いやそれどころか、不信仰者は預言者たちがもたらしたものを拒否する。
- 23) だがアッラーは、かれらが胸に秘めることを熟知し、かれらの行動で知られないものはない。
- 24) 使徒よ、言え、あなた方を厳しい罰が待っていると。

本諸節の功德:

- 天と地は、主に服従する。
- 誰でも、善か悪に努めるもの。
- 審判の日の幸福の印は、右手で書を受け取ること。不幸の印は、それを左手で受け取ること。

- 35) 審判の日には、信仰する者が不信仰者たちを笑うのは、現世で不信仰者が信仰する者たちを笑っていたようなものである。
- 36) かれらは飾られた寝床から、アッラーが準備された永久の恵みを見渡している。
- 36) (そして言う)不信仰者たちは、現世での行いの報いとして恥ずべき懲罰を受けたのだ。

84. 割れる章(アル・インシカーク)

マッカ啓示

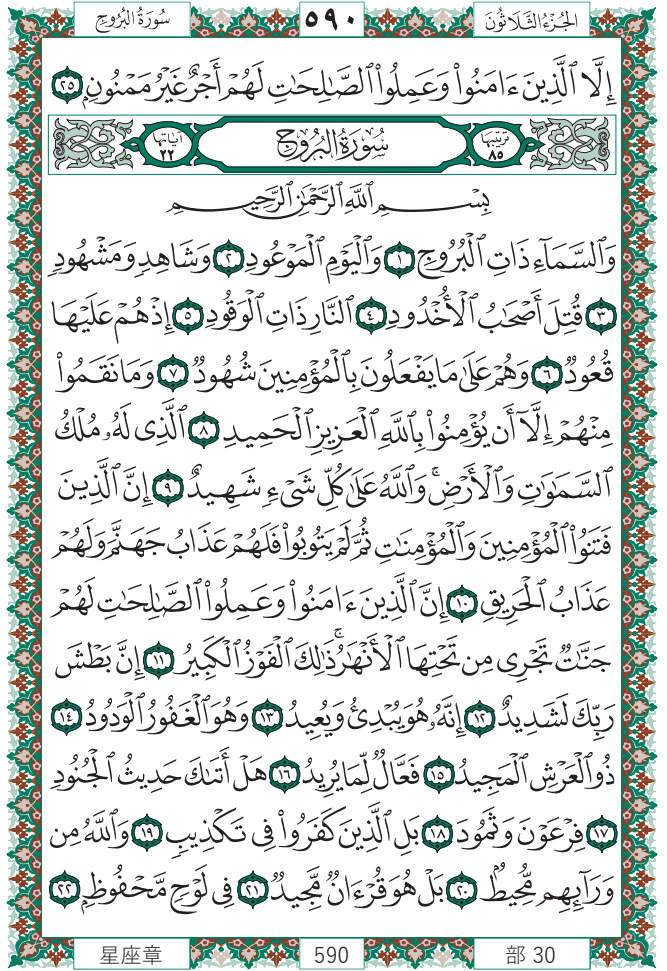
本章の趣旨:

全存在が服従に徹し、不信仰を否定しつつ、主の命令に対して従順に従う審判の日の描写

説明:

- 1) 天使たちが降りるために、天が割れて、
- 2) 主の命を聞き、それに従う時、
- 3) 皮革のようにアッラーにより大地が広げられ、
- 4) その中の宝物や死者がすっかり投げ出されて、
- 5) 主の命を聞き、それに従う時、
- 6) おお人間よ、確かにあなたは善と悪を行い、そのことについて審判の日に主の御裁きが下るのだ。
- 7) その時右手にその書を渡される者は、
- 8) その計算は、行いに対する責めを問われることなく容易に行われ、
- 9) 喜んで自分の家族のところに帰る。
- 10) だが左手や背後から書を渡される者は、
- 11) 破滅を叫び求めながら、
- 12) 燃える炎で焼かれる。
- 13) かれは自分の家族とともに、現世では不信仰と罪の諸行に嬉々として暮らしていた。
- 14) かれは死の後に、生に帰らないと思っていた。

25)しかし、信仰して善行に努める者は別であり、かれらには絶えることのない報奨がある。それが樂園なのだ。



85. 星座章(アル・ブルージュ)

マッカ啓示

本章の趣旨:

アッラーの力と完全な知識の明示と、信仰者たちに災いを待ちわびる者たちへの厳しい罰の警告

説明:

- 1)アッラーは、太陽、月などの居場所である天にかけて誓う。
- 2)全被造物を集めると約束された審判の日にかけて、
- 3)アッラーが誓うのは、すべての証言するものに対してである。つまり人々の証人である預言者、それからすべての証言されるもの、つまり預言者の証人である人々など、にかけてである。
- 4)大きな堀を掘った者たちは呪われる。
- 5)かれらは火に薪をくべて、信仰者たちを生きたまま放りこんだ。
- 6)かれらはそこに座り、燃える様子を見ていた。
- 7)かれらは信仰者たちに対して行った迫害について、自ら証言する。
- 8)かれら信仰者を殺害したのは、かれらが偉力大で讃美されるべきアッラーを信仰していたからに他ならない。
- 9)かれに、諸天と地の大権は属している。アッラーはすべてのことを知り、僕のすることをかれに隠すことはできない。
- 10)アッラーだけを信仰する男女を火災で迫害しており、その罪について改心しなかった者には、審判の日には地獄の懲罰があり、また火の苦痛がある。それは信者を火で焼いた報いである。
- 11)信仰して善行に励んだ者には、川が下を流れる樂園がある。これは比較することのできないほどの、偉大な勝利だ。
- 12)使徒よ、真に悪行の人々に対するあなたの主の襲撃は、一時の猶予はあるとしても、厳しいものだ。
- 13)かれこそは創造され、懲罰を与えられ、またそれを繰り返すお方。
- 14)かれは、悔い改める人をよく赦され、敬虔な信奉者たちを愛される。
- 15)栄光の玉座の持ち主。
- 16)かれは御望みの者を赦し、あるいは罰するなど、考え通りにされる方。かれには何も強制することはできない。かれに称賛あれ。
- 17)使徒よ、戦闘用意をして真実への障害となる軍勢の話が、あなたに届いたか？
- 18)フィルアウンと預言者サーリフ(平安あれ)の遣わされたサムードの民。
- 19)これらの人々が信仰の障害となるのは、信仰を拒否した民が崩壊させられた話が届かなかったからではない。そうではなく、俗欲のために預言者たちがもたらしたものを拒否しているのである。
- 20)アッラーは、かれらをとり囲んで、かれらの行動を記録される。見落とすものではなく、その行いに報いを与えられる。
- 21)いや、クルアーンは、それを拒否する人々が言うような詩でもなければ、サジャウ(古代の韻律詩)でもない。それは高貴な、クルアーンなのである。
- 22)改ざん、歪曲、あるいはいかなる増減からも守られた板に銘記されている。

本諸節の功德:

- 信者は信仰の大小に応じて試される。
- 身体の安全よりも信仰の安全を優先することは、審判において救済される兆候の一つである。
- 改心することは、条件を満たしていれば、過去の罪を帳消ししてくれる。

86. 夜訪れるもの章(アッ・ターリク)

マッカ啓示

سُورَةُ الطَّارِقِ

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالسَّمَاءِ وَالطَّارِقِ ① وَمَا أَدْرَاكَ مَا الطَّارِقُ ② التَّجَمُّ النَّاقِبُ ③
 ④ إِنَّ كُلَّ نَفْسٍ لَمَّا عَلَيْهَا حَافِظٌ ⑤ فَلْيَنْظُرِ الْإِنْسَانُ مِمَّ خُلِقَ ⑥
 ⑦ خُلِقَ مِنْ مَّاءٍ دَافِقٍ ⑧ يَخْرُجُ مِنْ بَيْنِ الصُّلْبِ وَالتَّرَائِبِ ⑨ إِنَّهُ وَعَى
 رَجْعِهِ لِقَادِرٌ ⑩ يَوْمَ بُئِيَ السَّرَائِرُ ⑪ فَمَا لَهُ مِنْ قُوَّةٍ وَلَا نَاصِرٍ ⑫
 ⑬ وَالسَّمَاءِ ذَاتِ الرَّجْعِ ⑭ وَالْأَرْضِ ذَاتِ الصَّدْعِ ⑮ إِنَّهُ
 لَقَوْلٌ فَصْلٌ ⑯ وَمَاهُوَ بِالْهَزْلِ ⑰ إِنَّهُمْ يَكِيدُونَ كَيْدًا ⑱
 ⑲ وَأَكِيدُ كَيْدًا ⑳ فَمَهْلِكُ الْكَافِرِينَ أَهْمِلُهُمْ رُوَيْدًا ㉑

سُورَةُ الْأَعْلَى

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

سَبِّحِ اسْمَ رَبِّكَ الْأَعْلَى ① الَّذِي خَلَقَ فَسَوَّى ② وَالَّذِي قَدَّرَ فَهَدَى ③
 ④ وَالَّذِي أَخْرَجَ الْمَرْعَى ⑤ فَجَعَلَهَا خُتْلًا حَاكِيًا ⑥ سَفَرًا نَكَّ ⑦
 ⑧ فَلَا تَنْسَى ⑨ إِنْ أَمَّا شَاءَ اللَّهُ إِنَّهُ يَعْلَمُ الْجَهْرَ وَمَا يَخْفَى ⑩ وَيَسِّرُكَ
 ⑪ لِلْيُسْرَى ⑫ فَذَكِّرْ إِنْ نَفَعَتِ الذِّكْرَى ⑬ سَيَذَكِّرْ مَنْ يَخْتَشَى ⑭

本章の趣旨:

アッラーの偉大な力と人間に対する完全なる監視

説明:

- ① アッラーは天と夜訪れる星にかけて誓った。
- ② 使徒よ、この偉大な星をあなたに知らせるものは何か。
- ③ 天を貫く閃光を発する星。
- ④ すべての人間は、アッラーから託された天使によって、審判の日の精算のためにその行いを記録される。
- ⑤ 人間は、何から創られたかを考えてみよ。アッラーの力と人のそれとの差が明らかになる。
- ⑥ かれは子宮へと注がれる、噴出する水から創られる。
- ⑦ それは、脊髄と肋骨の間から出てくる。
- ⑧ 確かにかれは卑しい水から創造されたので、死後もそれを清算と応報のために、再び生きた形で復活させることが可能なのだ。
- ⑨ その日、隠されたことが裁かれ、意図、信仰など心の中のものも暴露され、正しい人は誤った人と区別される。
- ⑩ 人間には懲罰から救う力もなく、誰の助けもない。
- ⑪ 繰り返す雨を降らせる天にかけて、
- ⑫ 植物、果実、樹木などが裂け目から出てくる大地にかけて。
- ⑬ 間違いなく、ムハンマド(アッラーの祝福と平安を)に啓示されたこのクルアーンは、真実と虚偽、正直さと欺瞞を区別する言葉である。
- ⑭ それは戯れや過ちではなく、真剣さであり、真理である。
- ⑮ 確かにかれらは、預言者のもたらしたものを受け入れず、陰謀を企んで拒否し、隠蔽しようとする。
- ⑯ われもまた、教えの勝利と虚偽の否認のために企む。
- ⑰ 使徒よ、だから不信仰者たちにはしばし時間を与えるがよい。少し猶予を与えて、かれらの懲罰や破壊を急ぐのではない。

الحق

87. 至高者章(アル・アアラー)

マッカ啓示

本章の趣旨:

心に至高者からの恵みを想起させ、来世と結びつけ、現世の雑事からは離れさせること

説明:

- ① あなたの主、至高のお方があらゆる被造物より超越されていることを称え、その御名を唱え、崇拜せよ。
- ② かれは人間を創造し、素晴らしい姿に整えられ、均整よくされた。
- ③ またかれはすべての被造物に属性、種類、特性などを定められ、適切で妥当なところへ導かれる。
- ④ 牧場に家畜の食べる緑を出されるお方。
- ⑤ 緑で新鮮なものから、それを浅黒い枯れた屑にされる。
- ⑥ 使徒よ、われらは、あなたにクルアーンを教え、それを忘れないように胸に集めよう。だから、忘れないようにと誦読でジブリールと競り合おうとしないように。
- ⑦ アッラーが御望みにならない限り、あなたは忘れない。アッラーに称赞あれ、かれは、表われたものと隠れたものを知っておられる。何もかれに秘匿されるものはない。
- ⑧ われらは、アッラーを喜ばせ、あなたを楽園に入らせる行動を、あなたに容易にするだろう。
- ⑨ だから下したクルアーンで人々を諭すのだ。諭しが耳に入っている限り、かれらに説き続けよ。
- ⑩ 主を畏れる者は、諭しに注意を払うだろう。なぜならば、その人は諭しから受益するからである。

本諸節の功德:

- 天使たちは人の善も悪も記録して、清算の対象とする。
- 至高なるアッラーの企みと比べると、不信仰者の企みの脆弱であること。
- アッラーを恐れることは、その訓戒に従う原因となる。

وَيَتَجَنَّبُهَا الْأَتْقَى ۝ الَّذِي يُصَلِّي النَّارَ الْكُبْرَى ۝ ثُمَّ لَا يَمُوتُ فِيهَا وَلَا يَحْيَى ۝ قَدْ أَفْلَحَ مَنْ تَزَكَّى ۝ وَذَكَرَ اسْمَ رَبِّهِ فَصَلَّى ۝
 بَلْ تُؤْثِرُونَ الْحَيَاةَ الدُّنْيَا ۝ وَالْآخِرَةَ خَيْرٌ وَأَبْقَى ۝ إِنَّ هَذَا لَفِي الصُّحُفِ الْأُولَى ۝ صُحُفِ إِبْرَاهِيمَ وَمُوسَى ۝

سورة العنكبوت

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

هَلْ أَتَاكَ حَدِيثُ الْعُنْكَبِةِ ۝ ۱ ۝ وَجُوهٌ يَوْمَئِذٍ خَشِيعَةٌ ۝ ۲ ۝ عَامِلَةٌ نَّاصِبَةٌ ۝ ۳ ۝ تَصَلِّي نَارَ الْهَامِيَةِ ۝ ۴ ۝ تُسْقَى مِنْ عَيْنٍ آيَةٍ ۝ ۵ ۝ لَيْسَ لَهُمْ طَعَامٌ إِلَّا مِنْ صَرِيحٍ ۝ ۶ ۝ لَا يُسْمِنُ وَلَا يُغْنِي مِنْ جُوعٍ ۝ ۷ ۝ وَجُوهٌ يَوْمَئِذٍ نَاعِمَةٌ ۝ ۸ ۝ لِسَعْيِهَا رَاضِيَةٌ ۝ ۹ ۝ فِي جَنَّةٍ عَالِيَةٍ ۝ ۱۰ ۝ لَا تَسْمَعُ فِيهَا لَغِيَةً ۝ ۱۱ ۝ فِيهَا عَيْنٌ جَارِيَةٌ ۝ ۱۲ ۝ فِيهَا سُرُرٌ مَرْفُوعَةٌ ۝ ۱۳ ۝ وَأَكْوَابٌ مَوْضُوعَةٌ ۝ ۱۴ ۝ وَنَمَارِقُ مَصْفُوفَةٌ ۝ ۱۵ ۝ وَزُرِّيٌّ مَجْنُوثٌ ۝ ۱۶ ۝ أَفَلَا يَنْظُرُونَ إِلَى الْإِبِلِ كَيْفَ خُلِقَتْ ۝ ۱۷ ۝ وَإِلَى السَّمَاءِ كَيْفَ رُفِعَتْ ۝ ۱۸ ۝ وَإِلَى الْجِبَالِ كَيْفَ نُصِبَتْ ۝ ۱۹ ۝ وَإِلَى الْأَرْضِ كَيْفَ سُطِحَتْ ۝ ۲۰ ۝ فَذَكِّرْ ۝ إِنَّمَا أَنْتَ مُذَكِّرٌ ۝ ۲۱ ۝ لَسْتَ عَلَيْهِمْ بِمُصَيِّرٍ ۝ ۲۲ ۝

- 11)だが不信仰者が諭しを避けようとするのは、かれが最も邪悪な者で、来世では地獄の火に入ることになるから。
- 12)かれは来世で最大の炎に苦しみ、その暑さを永久に味わうこととなる。
- 13)その中で、懲罰から釈放されず、死にもせず、荣誉あるよい生き方もしない。
- 14)だが偶像と罪から自ら清めた者は、目標達成である。
- 15)それは、かれの主の御名を唱え、命じられたように礼拝を守る者。
- 16)しかしあなた方は、来世と大きな違いがあるのに、現世の生活を好む。
- 17)来世はもっと良く、楽しく快適で、その恵みは絶えないので、永遠なものであるのに。
- 18)これらの教えや話は、確かにあなた以前の昔の啓典にある。
- 19)それらは、イブラーヒームやムーサー(両名に平安を)の啓典である。

88. 覆いかぶさるもの章(アル・ガーシャ)

マッカ啓示

本章の趣旨:

来世の報奨と懲罰におけるアッラーの力を想起させ、心に希望と恐怖を植えつけるべく、幾多の証拠を提示すること

説明:

- 1)使徒よ、恐怖で人々を覆う審判の日の話は、あなたに達したか。
- 2)その日、人々は悔めか、あるいは幸運な顔をしている。悔めな顔は、侮辱され、うなだれている。
- 3)引っ張る鎖と繋がれる首枷によって、その顔は疲れ、精力尽きています。
- 4)それらの顔は燃えさかる火で焼かれ、
- 5)熱湯の湧き水から飲まされる。
- 6)かれらには乾くと毒を持つ、シブリクと呼ばれる最悪で強烈な臭いを放つ食物以外はない。
- 7)それでは栄養にもならず、飢えも癒(いや)せない。
- 8)その日、幸運な者たちの顔は和(なご)やかで、幸せそうで、それはかれらが授かる恵みのためである。
- 9)現世での努力から受ける、報奨の大きさと喜びに満ち、
- 10)高い位置に置かれた楽園の中で、
- 11)虚偽や無駄口などは聞かれない。ましてや、禁じられた言葉は。
- 12)楽園には、かれらが望む通りの方向に流れ出る泉があり、
- 13)高く上げられた寝床があり、
- 14)杯が備えられ、
- 15)肘かけが整然と並べられ、
- 16)敷物があちらこちらに、広げられている。

- 来世での幸福な者たちと不幸な者たちの違いを明らかにしてから、アッラーは、その力の偉大さと創造美を不信仰者に示し、かれらが幸福な者となって楽園に入るための信仰の証拠として、こう言われる。
- 17)アッラーがラクダをどのように創造されたかを、またどうやってそれを人間に従わせたのかを考えないのか。
- 18)また天がどうやって高く掲げられ、かれらの上に落ちないようにされたのか、
- 19)また山々がどうやって据え付けられたのか、それで大地をしっかりとらせ、人々をぐらつかせないのかを。
- 20)また大地がどうやって広げられ、人々の住まいに適切にされたのかを。
- 21)アッラーはその力を人々に示されてから、預言者に言われた。使徒よ、諭し、来るべき懲罰で戒めよ。あなたは一人の説諭者に他ならない。人々を導くのは、アッラーの仕事である。
- 22)あなたはかれらを支配し、信仰させることはできないのだ。

本諸節の功德:

- 心の表裏の汚れを清める重要性。
- 創造主の存在とその偉大さを、被造物で証拠立てること。
- 布教師の責務は、人々を導くことではない。それはアッラーの手中にある。

إِلَّا مَن تَوَلَّىٰ وَكَفَرَ ۖ فَيُعَذِّبُهُ اللَّهُ الْعَذَابَ الْأَكْبَرَ ۚ
 إِنَّ إِلَيْنَا إِيَابَهُمْ ۖ ثُمَّ إِنَّ عَلَيْنَا حِسَابَهُمْ ۖ

سُورَةُ الْمَجِيْدِ

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالْفَجْرِ ۝
 وَلَيَالٍ عَشْرٍ ۝
 وَالشَّفْعِ وَالْوَتْرِ ۝
 وَاللَّيْلِ إِذَا يَسْرِ ۝
 هَلْ فِي ذَٰلِكَ قَسَمٌ لِّذِي حِجْرِ ۝
 أَلَمْ تَرَ أَنَّ الْعِمَادَ ۖ
 الَّتِي لَمْ يَخْلُقْ مِثْلَهَا فِي الْبِلَادِ ۝
 وَتَمُودَ الَّذِينَ
 جَابُوا الصَّخْرَ بِالْوَادِ ۖ
 وَفِرْعَوْنَ ذِي الْأَوْتَادِ ۖ
 الَّذِينَ طَعَوْا فِي
 الْبِلَادِ ۖ
 فَأَكْفَرُوا فِيهَا الْفَسَادَ ۖ
 فَصَبَّ عَلَيْهِمْ رَبُّكَ سَوْطَ
 عَذَابٍ ۖ
 إِنَّ رَبَّكَ لَبِالْمِرْصَادِ ۖ
 فَأَمَّا الْإِنْسَانُ إِذَا مَا ابْتَلَاهُ
 رَبُّهُ فَأَكْرَمَهُ وَنَعَّمَهُ
 فَيَقُولُ رَبِّي أَكْرَمَنِ ۖ
 وَأَمَّا إِذَا مَا ابْتَلَاهُ
 فَقَدَرَ عَلَيْهِ رِزْقَهُ
 فَيَقُولُ رَبِّي أَهْنَنِ ۖ
 كَلَّا بَلْ لَّا تَتَذَكَّرُونَ
 الْيَتِيمَ ۖ
 وَلَا تَحْضُونَ عَلَىٰ طَعَامِ الْمَسْكِينِ ۖ
 وَتَأْكُلُونَ
 الْوَرَثَ أَكْلًا قَلِيلًا ۖ
 وَتُحِبُّونَ الْمَالَ حُبًّا جَمًّا ۖ
 كَلَّا إِذَا
 دُكَّتِ الْأَرْضُ دَكًّا دَكًّا ۖ
 وَجَاءَ رَبُّكَ وَالْمَلَكُ صَفًّا صَفًّا ۖ

23)だが誰でも、背を向けて信仰を拒否し、アッラーと預言者から去るなら、
 24)アッラーは、審判の日に地獄の火に永遠に入れて、最大の罰で苦しめる。
 25)確かにわれらのところだけに、死後かれらは戻って来る。
 26)そしてわれらだけが、かれらの行動を清算する。それはあなたやあなた以外の者のすることではない。

89. 暁章(アル・ファジュール)

マッカ啓示

本章の趣旨:
 世界と人間の状況におけるアッラーの偉大さと力、そして思い上がった者たちの結末を提示する

説明:
 1)崇高なるアッラーは暁にかけて誓う。
 2)巡礼月初めの10の夜にかけて、
 3)物事の内、一組になったものと単一のものにかけて、
 4)到来し、続き、去り行く夜にかけて。あなた方の行いは、必ずや報われる。
 5)これらの中に、理知的な者が受益する誓いがあるのではないか。
 6)使徒よ、あなたはアッラーが、アードの民をどのように処分されたかを考えないのか。かれらはフードが遣わされた人々で、預言者を拒否した。
 7)イラムという先祖に遡る、背の高いアードの部族。
 8)そのような者たちは、どの国においても創られたことはなかった。
 9)また谷間の岩を彫ったサーリフの民であるサムード、かれらは山の岩を掘りぬいて、そこを住居としていた。
 10)杭の持ち主といわれるフィルアウン。それで人々を罰していたが、アッラーはかれをどうされたのか。

11)これらは、その国における圧政と横暴の者たちで、自分の土地で違法行為をした。
 12)それらの地に不信仰と罪を広め、腐敗を広めた。
 13)それであなたの主は、苦痛の鞭をかれらに浴びせられ、地上から抹消された。
 14)使徒よ、真にあなたの主は、僕の行動をすべて観察されて、善行をなす者にはそれでもって樂園の報いをされる。悪行をする者には、地獄の火がある。
 15)アッラーが破滅させられた民族は、力と権勢を与えられていたが、しかしそれはアッラーがかれらに満悦されていたわけではない。アッラーは言われる。さて人間は、富と名誉と子孫の御恵みを与えられることによって、アッラーから試されると、かれがそうなのは自分がアッラーから見て、高貴であるからだと考える。そして主がわたしに御恵みを与えられたのは、わたしがそれにふさわしいからだと言う。
 16)だがかれを試み、御恵みを減らされると、これは主がわたしを軽く見られているからだと言う。わたしを蔑んでいるのだと。
 17)断じてそうではない。恵まれた者はアッラーの目に好ましく、惨めな者はアッラーの目に無意味だというのではない。いや、実際は、あなた方はアッラーからの糧にも拘らず、孤児に何も与えていないではないか。
 18)また何も食べるものもないような貧者を食べさせるよう、互いに勤めていない。
 19)そしてあなた方は弱者や、婦人や孤児の権利をひどくむさぼっており、それが許されているかどうかなど気にしていない。
 20)むやみやたらに財産を愛してアッラーの道に支出するのをけちっているが、それはあなた方の強欲のためである。
 21)あなた方の行いが、そのようであっては断じていけない。大地が徹底的に動かされて、揺さぶられる時、
 22)使徒よ、主は僕の間を裁くため、列なす天使と共にお出ましになる。

本諸節の功德:

- 巡礼月初めの10夜は、他の日々よりも功德が大きい。
- 審判の日にアッラーが到来することが、擬人化、比喩的解釈、属性拒否なしに、かれに相応しい形で実現することの確証。
- 信仰者は試練を受ければ忍耐し、恵みを受ければ感謝する。

وَالَّذِينَ كَفَرُوا بِآيَاتِنَا هُمْ أَصْحَابُ الْمَشْأَمَةِ ﴿١٧﴾ عَلَيْهِمْ نَارٌ مُّؤَصَّدَةٌ ﴿١٨﴾

سُورَةُ الشَّمْسِ ﴿١٧﴾

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالشَّمْسُ وَضُحَاهَا ﴿١﴾ وَالْقَمَرُ إِذَا تَلَّهَا ﴿٢﴾ وَالنَّهَارُ إِذَا جَلَّهَا ﴿٣﴾ وَاللَّيْلُ إِذَا يَغْشَاهَا ﴿٤﴾ وَالسَّمَاءَ وَمَا بَنَاهَا ﴿٥﴾ وَالْأَرْضَ

وَمَا طَحَّهَا ﴿٦﴾ وَنَفْسٍ وَمَا سَوَّاهَا ﴿٧﴾ فَأَلْهَمَهَا فُجُورَهَا وَتَقْوَاهَا ﴿٨﴾ قَدْ أَفْلَحَ مَنْ رَكَّهَا ﴿٩﴾ وَقَدْ خَابَ مَنْ دَسَّهَا ﴿١٠﴾

كَذَّبَتْ ثَمُودُ بِطَّغْوَاهَا ﴿١١﴾ إِذِ انبَعَثَ أَشْقَاهَا ﴿١٢﴾ فَقَالَ لَهُمْ رَسُولُ اللَّهِ نَاقَةَ اللَّهِ وَسُقْيَاهَا ﴿١٣﴾ فَكَذَّبُوهُ فَعَقَرُوهَا فَدَمْدَمَ عَلَيْهِمْ رَبُّهُم بِذُنُوبِهِمْ فَسَوَّاهَا ﴿١٤﴾ وَلَا يَخَافُ عُقْبَاهَا ﴿١٥﴾

سُورَةُ اللَّيْلِ ﴿١٧﴾

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَاللَّيْلُ إِذَا يَغْشَى ﴿١﴾ وَالنَّهَارُ إِذَا تَجَلَّى ﴿٢﴾ وَمَا خَلَقَ الذَّكَرَ وَالْأُنثَى ﴿٣﴾ إِنَّ سَعْيَكُمْ لَشَتَّى ﴿٤﴾ فَأَمَّا مَنْ أَعْطَى وَاتَّقَى ﴿٥﴾ وَصَدَّقَ بِالْحُسْنَى ﴿٦﴾ فَسَنِيسِرُوهُ لِلْيُسْرَى ﴿٧﴾ وَأَمَّا مَنْ بَخِلَ وَاسْتَغْنَى ﴿٨﴾ وَكَذَّبَ بِالْحُسْنَى ﴿٩﴾

太陽章 - 夜章

595

部 30

れに悪さをしないようにと言った。⑭だがかれらは使徒を嘘付きとして、仲間の合意も得てからその男は、ラクダの足の腱を切った。そこでアッラーはその罪のために、かれらをまとめて滅ぼし、全員同様に懲罰された。⑮かれはこういう罰の報い方を、何の非難も恐れずにされる。アッラーに称賛あれ。

92. 夜章(アッ・ライル)

マッカ啓示

本章の趣旨:

信仰者と不信仰者の優劣の差を明確にすべく、アッラーの印と人間とその行いの違いを示す

説明:

- ①アッラーは誓う。天地とその間のすべてを暗さで覆い隠す夜にかけて、
- ②明るく見えるようになる昼にかけて、
- ③雌雄を創造されたことにかけて、
- ④人々よ、あなた方の尽力は、実に多様で、楽園に入る理由となる善行と、地獄行きの理由となる悪行がある。
- ⑤義務的な施し(ザカー)、拠出や償いを行い、他方、アッラーの禁止事項から自重し、⑥またアッラーが約束されたものを真実と考える者には、⑦善行をして施しをするという、われらの道を進むのを容易にする。⑧他方自分の財産だけで十分とし、アッラーを必要とせず、またその恵みをお願いすることもなく、必要な施しをしないようなけり、⑨アッラーの報奨の約束や、アッラーの道における施しの報いを拒否する者は、

本諸節の功德:

- 心を清め浄化する重要性。
- 背信の協力者は罪の同犯者である。
- 罪は現世の懲罰の原因となる。
- 全ての者は、創造によって宿命づけられた行いへと指向する。それゆえに従順なものもいれば、反逆的なものもある。

⑮だが預言者に下されたわれらの印を信じないのは、左手の者たちである。

⑯審判の日には、かれらの上に懲罰の地獄の火が覆うこととなる。

91. 太陽章(アッ・シャムス)

マッカ啓示

本章の趣旨:

自然や人間とその状態の内にあるアッラーの印を明らかにすることで、心の浄化と罪への戒めとする

説明:

- ①アッラーは誓う。太陽と、それが東から昇って高くなる時間にかけて、
- ②日没に続く月にかけて、
- ③太陽の輝きで地上のすべてを現わす昼にかけて、
- ④それを包み隠す夜にかけて、
- ⑤天空とその完璧な創造にかけて、
- ⑥大地とそれを広げて人々が住めるようにしたお方にかけて、
- ⑦魂とそれを形成したお方にかけて、
- ⑧何が回避すべき悪か、そして何が行うべき善かを、教えなくても理解するようにされた。
- ⑨実際、美德を身につけ、悪徳から逃れることで魂を清める者は確かに成功する。
- ⑩魂を罪と不服従に埋もれさせる人は滅びる。
- ⑪魂を罪と不服従に埋もれさせて滅んだ人のことを語った後で、アッラーは、サムードの民をその実例として挙げられる。サムードは、罪と不服従で則を越えて、預言者サーリフを嘘付きだとした。
- ⑫かれらの中の最も性悪な者が使徒に対抗するために選ばれた時、
- ⑬アッラーの使徒サーリフ(平安を)はかれらに、これはアッラーの雌ラクダだから、飲み水を取らせてやって、そ

فَسَيَسِيرُهُ لِّلْعُسْرَى ۝ وَمَا يَعْنِي عَنْهُ مَالُهُ إِذَا تَرَدَّى ۝ إِنَّ عَلَيْنَا لَلْهُدَى ۝ وَإِنَّ لَنَا الْآخِرَةَ وَالْأُولَى ۝ فَأَنْذَرْتُكُمْ نَارًا تَأْتَطُّهَا لَا يَصْلُهَا إِلَّا الْآشَقَى ۝ الَّذِي كَذَّبَ وَتَوَلَّى ۝ وَسَيُجَنَّبُهَا الْأَتْقَى ۝ الَّذِي يُؤْتِي مَالَهُ يَتَزَكَّى ۝ وَمَا لِأَحَدٍ عِنْدَهُ مِن نِّعْمَةٍ تُجْزَى ۝ إِلَّا ابْتِغَاءَ وَجْهِ رَبِّهِ الْأَعْلَى ۝ وَلَسَوْفَ يَرْضَى ۝

سُورَةُ الصُّحُحِ

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالصُّحْحَى ۝ وَاللَّيْلَ إِذَا سَجَى ۝ مَا وَدَّعَكَ رَبُّكَ وَمَا قَلَى ۝ وَالْآخِرَةَ حَيْرٌ لَّكَ مِنَ الْأُولَى ۝ وَلَسَوْفَ يُعْطِيكَ رَبُّكَ فَتَرْضَى ۝ أَلَمْ يَجِدْكَ يَتِيمًا فَآوَى ۝ وَوَجَدَكَ ضَالًّا فَهَدَى ۝ وَوَجَدَكَ عَائِلًا فَأَغْنَى ۝ فَأَمَّا الْيَتِيمَ فَلَا تَقْهَرْ ۝ وَأَمَّا السَّائِلَ فَلَا تَنْهَرْ ۝ وَأَمَّا بِنِعْمَةِ رَبِّكَ فَحَدِّثْ ۝

سُورَةُ النَّجْمِ

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

أَلَمْ نَشْرَحْ لَكَ صَدْرَكَ ۝ وَوَضَعْنَا عَنكَ وِزْرَكَ ۝

⑩われらはかれの悪行を容易にし、善行を難しくする。⑪かれが死に、地獄行きとなる時には、けちってきた財産は何の役に立たない。⑫確かにわれらの責任で、真実の道と虚偽の道を明らかにしなければならない。⑬また確かに、来世も現世も、われらのもの。それはわれらに専属であり、われらが望みどおりに司る。⑭だからわれは燃え盛る火について、あなた方に警告した。⑮最も邪悪な者、つまり不信仰者しか、それで焼かれることはない。⑯それは使徒(アッラーの祝福と平安を)のもたらすものを嘘であるとして、アッラーの命令実行を拒んだ者なのだ。⑰だが最もアッラーを畏れる者、アブー・バクルのような者はそれから遠ざかる。⑱その人は、その財産を正しく施すことで、自らを清める。⑲かれは誰に対する施しでも、見返りのためではなく、⑳ただ至高の主の満悦を、請い願うだけである。㉑やがてかれは、間違いなく満悦し、潤沢な報奨を与えるだろう。

93. 朝章(アッ・ドハー)
マッカ啓示

本章の趣旨:
預言者(アッラーの祝福と平安を)への慰安と信仰者たちへの訓戒として、アッラーがかれへの啓示という恩恵を授け、その面倒を徹頭徹尾、見られること。

説明:
①アッラーは誓う。朝にかけて、②暗くなり人々も静まる夜にかけて。③使徒よ、主はあなた(ムハンマド)を見捨てられないし、また嫌われてもおられない。啓示が休止すると、多神教徒たちはそのように言いだすのだ。④いつも豊富な糧が永遠にある来世は、あなたにとって現世より、もっと良い住まいである。⑤やがて主はあなたとその民に、多くを授けられて、あなた方は満足するに違いない。⑥かれはあなたを、父親が死んだ孤児として見出だされ、祖父のアブドル・ムッタリブ、次いで伯父のアブー・タリブの庇護の下に置かれたではないか。⑦かれは、あなたが啓示も信仰も知らずに、さ迷っているのを見付けて、それらを教えられたではないか。⑧またあなたが貧しいのを見付けて、自立できるようにされたではないか。⑨だから幼いころに父親を失った孤児を虐(しいた)げてはならない。⑩また請う者を拒否してはならない。⑪そしてあなたの主の恩恵についてこそ、感謝し、語るのだ。

94. 胸を広げる章(アッ・シャルフ)
マッカ啓示

本章の趣旨:
苦難や悩み、そしてその原因を除去することによる、預言者に対するアッラーの恩恵の描写

説明:
①アッラーは、あなた(ムハンマド)の胸を安堵させ、啓示を受けやすくしたのではないか。
②あなたから罪を除去したのではないか。

- 本諸節の功徳:**
- 預言者(アッラーの祝福と平安を)のアッラーに於ける地位は、際立っている。
 - 恵みに対する感謝は、アッラーの僕に対する権利である。
 - 弱者への慈悲は当然で、かれらには親切でもなければならない。

الَّذِي أَنْقَضَ ظَهْرَكَ ۖ وَرَفَعْنَا لَكَ ذِكْرَكَ ۚ فَإِنَّ مَعَ الْعُسْرِ يُسْرًا ۚ
 إِنَّ مَعَ الْعُسْرِ يُسْرًا ۚ فَإِذَا فَرَغْتَ فَانصَبْ ۚ وَإِلَىٰ رَبِّكَ فَارْجَبْ ۚ

سُورَةُ التِّينِ

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

والتِّينِ وَالزَّيْتُونِ ۚ وَطُورِ سِينِينَ ۚ وَهَذَا الْبَلَدِ الْأَمِينِ ۚ
 لَقَدْ خَلَقْنَا الْإِنْسَانَ فِي أَحْسَنِ تَقْوِيمٍ ۚ ثُمَّ رَدَدْنَاهُ أَسْفَلَ سَفَلِينَ ۚ
 إِلَّا الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ فَلَهُمْ أَجْرٌ غَيْرُ مَمْنُونٍ ۚ
 فَمَا يُكَذِّبُكَ بَعْدَ بِالذِّينِ ۚ أَلَيْسَ اللَّهُ بِأَحْكَمَ الْحَاكِمِينَ ۚ

سُورَةُ الْعَلَقِ

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

اقْرَأْ بِاسْمِ رَبِّكَ الَّذِي خَلَقَ ۚ خَلَقَ الْإِنْسَانَ مِنْ عَلَقٍ ۚ اقْرَأْ
 وَرَبُّكَ الْأَكْرَمُ ۚ الَّذِي عَلَّمَ بِالْقَلَمِ ۚ عَلَّمَ الْإِنْسَانَ
 مَا لَمْ يَعْلَمْ ۚ كَلَّا إِنَّ الْإِنْسَانَ لِرَبِّهِ لَكَنَ طَغْيَىٰ ۚ
 إِنَّ إِلَىٰ رَبِّكَ الرُّجْعَىٰ ۚ أَرَأَيْتَ الَّذِي يَنْهَىٰ عَبْدًا
 إِذَا صَلَّىٰ ۚ أَرَأَيْتَ إِنْ كَانَ عَلَى الْهُدَىٰ ۚ أَوْ أَمَرَ بِالْقَوَىٰ ۚ

していると、何が言わせるのか。⑧アッラーは報いのための審判の日を設けた、最高に公正な審判者ではないのか。もしアッラーが、善行者にはその善行について、悪行者にはその悪行について、審判して報いもせず、僕たちを放ったらかしにしておくとすれば、そんなことは理解できるだろうか。

96. 凝血章(アル・アラク)

マッカ啓示

本章の趣旨:

主への服従と愛着をもたらす知識と啓示による人間の高尚さと、そうではない者の欠落の多さ

説明:

①使徒よ、アッラーの啓示を読み、創造されるあなたの主の御名において。②かれは一滴の精液、そして一つの凝血から、人間を創られた。③読み、あなたの主は最も親切で、他の誰の親切さもそれには遠く、気前良さと善の至高なお方。④かれは筆によって、書くこと、啓示を教えられた。⑤人間が知らないことを教えられた。⑥いや、人間が則を越えるのは、アブー・ジャハルのように、アッラーの定めを踏みはずす時である。⑦威厳や自身の富を、最早十分と考えたのだ。⑧人間よ、真に審判の日、あなたの主に戻り、誰でもあれその価値通りに報われるのだ。⑨あなたは見たか、アブー・ジャハルのような、阻止する驚くべき者を。⑩僕のムハンマド(アッラーの祝福と平安を)が、カアバ殿の近くで礼拝を捧げているのを、かれは阻んだ。⑪あなたは、阻止された者が、主からの導きと洞察の道にあったならば、一体どうなると思うのか。⑫あるいは、命令を実施し禁止を遵守することでアッラーを畏れることへと招く人を、本当に阻止できるのか。

本諸節の功德:

- アッラーの満悦は、最も高尚な目的である。
- イスラームにおける読み書きの重要性。
- 富裕はそれが慢心や真実から遠ざかることに導くならば、危険である。
- 良識を禁止することは、不信仰の特徴の一つである。
- 預言者の背中に罪の重圧があったならば、それ以外の者たちはどうであろうか？

- ③それは、あなたの背中に骨が折れんばかりに押し付けられていた。④またわれらは、あなたの評判を高めたのではないか。そうしてあなたの名前は、礼拝の呼び掛けや礼拝開始の成句に入ったのだ。⑤だから苦や厳しさがあれば、楽や易しさがあり、⑥確かに苦や厳しさがあれば、楽や易しさがあるということを十分知るならば、あなたは人々の邪魔立てを恐れることもなく、またアッラーへの呼びかけを止めることもない。⑦それで仕事を終えたら、主への崇拝に励め。⑧そして、あなたの願望と目的をアッラーのみに向かわせるのだ。

95. 無花果章(アッ・ティーン)

マッカ啓示

本章の趣旨:

人間の価値と荣誉は宗教にあり、その凋落と頹廢はそれを失うことにある。

説明:

- ①アッラーは誓う。無花果とオリーブ、そしてそれらが育つ、イーサー(平安を)が使徒として遣わされたパレスチナにかけて。②シナイ山にかけて。そこでアッラーはムサー(平安を)に親しく話された。③また入る人なら誰にでも安全を保障する、この禁忌のあるマッカの町にかけて。ムハンマド(アッラーの祝福と平安を)はそこに遣わされた。④確かにわれらは、人間を最も均整がとれて、素晴らしい姿に創った。⑤それからわれらは現世では、かれを老齢と高齢者の子供っばさに戻した。その身体からは最早受益しないのは、その天性を腐敗させ地獄行きとなる時と同様である。⑥ただし信仰して善行に努める者は別であり、年齢は増えるが、かれらに対しては尽きない報奨がある。それが樂園である。かれらはその天性を純粋に保っていた。⑦人々よ、ところが、最後の日について、アッラーの力をたくさん見たというのに、おまえ(ムハンマド)が嘘をつ

⑬使徒のもたらず真理を嘘であるとして背を向けたら、この拒否する人には何が起こると思うのか。アッラーを恐れないのか。

⑭僕を妨げるこの人は、アッラーがすべてを見ておられる、そして何も隠すことはできないことを知らないのか。

⑮いやいや、この無知な人が思うようではない。もしかれが僕に害を及ぼすことを止めないならば、**われら**は前髪を荒々しくつかんで地獄の火へと引っ張るだろう、

⑯その前髪の持ち主は、嘘付きで、誤った行動を取る者である。

⑰前髪をつかまれて地獄の火へと引っ張られる時、かれにその仲間や同僚を救助のために招集させてみよ。

⑱**われら**は地獄の見張りを召集するだろう。それは強靱な天使たちで、かれらは**われら**の命令に従い、**われら**の望み通りなんでもするのだ。そしていずれのグループがより強靱で、より能力が高いかが判明するだろう。

⑲この不在者が考えるようには、どんな損害もあなたには与えられない。あなたは命令であれ禁止であれ、かれに従ってはならない。ひれ伏して、主に服従して近付くように。それがあなたの**かれ**への近づき方なのだ。

97. 天命章(アル・カドル)

マッカ啓示

本章の趣旨:

天命の夜とそこにおいて下されるものの偉大さと功德の説明

説明:

①確かに**われら**は、天命の夜にこのクルアーンを、一度にこの世に一番近い天へと下した。同時に、ラマダーン月の天命の夜に、ムハンマド(アッラーの祝福と平安を)に啓示し始めた。

②預言者よ、この夜の善と恵みが何であることを知っているか。

③天命の夜は善に満ち、信仰して報奨を求めつつ礼拝に立つ人には、それは1000の月々よりも良い。

④その夜には天使たちとジブリール(平安を)は、アッラー(至高を称える賛美を)からのお許しにより、その年に起こることを命じられたあらゆる事柄を持って降りて来る。それは生活の糧、死、誕生、その他あらゆる命令である。

⑤その祝福された夜は、その初めから暁が訪れるその終わりまで、全てが全にあふれている。

98. 明証章(アル・バイナ)

マディーナ啓示

本章の趣旨:

ムハンマドのメッセージの完璧さとその明瞭さ

説明:

①啓典の民(ユダヤ教徒とキリスト教徒)と多神教徒で不信心な者は、かれらに明証と明澄な論拠が来るまで、不信仰への合意に背反しようとはしなかった。②この明証と明澄な論拠とは、清浄な人だけが触れることのできる、清浄無欠な書巻(クルアーン)を読んで聞かせるアッラーからの使徒である。③そこには、真正な情報と公正な裁きがある。それは人々を導いて、正しさと良識を教える。④律法を授かったユダヤ教徒、福音書を授かったキリスト教徒たちは、預言者がアッラーによって遣わされるまでは、異論を唱えなかった。ムスリムになった人もいたが、預言者の真実を知っていながらも、その不信仰に留まった人々もいた。⑤ユダヤ教徒とキリスト教徒の罪と執拗さは明白である。クルアーンでかれらが命じられたのは、かれらの啓典で命じられていたことだけであった。つまり、何もその同列に配することなく、ただアッラーに仕え、礼拝の務めを守り、定めぬ施しをするというだけのことであった。かれらが命じられたのは、逸脱することのないまっすぐな教えなのである。

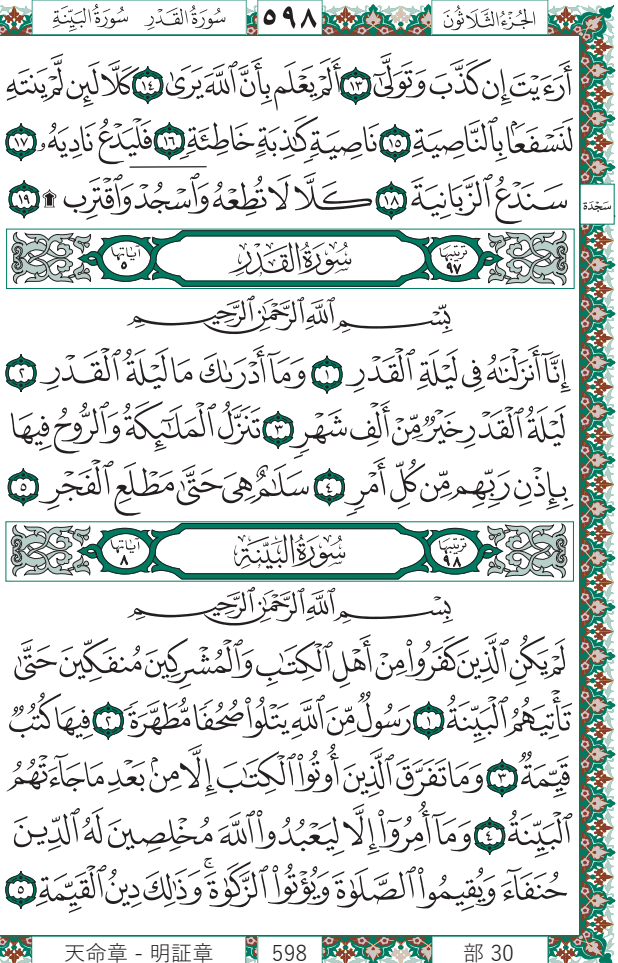
本諸節の功德:

●天命の日の夜の恩寵は、一年を通じて他の夜よりも大きい。

●礼拝時の誠実さは、それが受け入れられる条件の1つである。

●不信仰者は最悪の被造物であるが、信仰者は最善の被造物である。

●根本で天啓宗教の法規が一致することは、メッセージが受け入れられることを促す要因である。



إِنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا مِنْ أَهْلِ الْكِتَابِ وَالْمُشْرِكِينَ فِي نَارِ جَهَنَّمَ خَالِدِينَ فِيهَا أُولَئِكَ هُمْ شَرُّ الْبَرِيَّةِ ⑥ إِنَّ الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ أُولَئِكَ هُمْ خَيْرُ الْبَرِيَّةِ ⑦ جَزَاءُهُمْ عِنْدَ رَبِّهِمْ جَنَّاتُ عَدْنٍ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ خَالِدِينَ فِيهَا أَبَدًا رَضِيَ اللَّهُ عَنْهُمْ وَرَضُوا عَنْهُ ذَلِكَ لِمَنْ خَشِيَ رَبَّهُ ⑧

سُورَةُ الرَّحْمٰنِ ٩٩ آياتها

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمٰنِ الرَّحِیْمِ

إِذَا زُلْزِلَتِ الْأَرْضُ زِلْزَالَهَا ① وَأَخْرَجَتِ الْأَرْضُ أَثْقَالَهَا ② وَقَالَ الْإِنْسَانُ مَا لَهَا ③ يَوْمَئِذٍ تُخْبِتُ أَعْيُنُهُمْ ④ يَا نَ رَبِّكَ أَوْحَىٰ لَهَا ⑤ يَوْمَئِذٍ يُصْدِرُ النَّاسُ أَشْتَاتًا لَيْرُوا أَعْمَالَهُمْ ⑥ فَمَنْ يَعْمَلْ مِثْقَالَ ذَرَّةٍ خَيْرًا يَرَهُ ⑦ وَمَنْ يَعْمَلْ مِثْقَالَ ذَرَّةٍ شَرًّا يَرَهُ ⑧

سُورَةُ الْعٰدِيَاثِ ١١ آياتها

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمٰنِ الرَّحِیْمِ

وَالْعٰدِيَاتِ ضَبْحًا ① فَالْمُورِيَاتِ قَدْحًا ② فَالْمُغِيرَاتِ صُبْحًا ③ فَأَثَرْنَ بِهِ نَقْعًا ④ فَوَسَطْنَ بِهِ جَمْعًا ⑤

⑥ユダヤ教徒とキリスト教徒と多神教徒で不信仰の者は、審判の日には、地獄の火の中に入って、そこに永遠に住むのだ。これらは、アッラーを信じず、預言者を拒否したので、被造物の中で最悪の者である。
⑦だが信仰して善行に励む者たちは、被造物の中で最善の者だ。
⑧かれらへの主(アッラー)からの報奨は、樹木と宮殿があり川が下を流れる楽園で、そこに永遠に住む。アッラーはかれらの信仰と服従に満悦され、かれらも恩寵に喜悅している。これらは主を畏れ、その命令に従い、禁止されたものは控える者に対するものだ。

99. 地震章(アッ・ザルザラ)

マディーナ啓示

本章の趣旨:
不注意な心に復活の恐怖と、その清算の詳細なことを想起させる

説明:
①最後の審判の日、大地が激しく揺れ、
②大地が遺体やその他の重荷を投げ出し、
③大地が揺れ動くとは、何事が起っているのかと人が困惑して言う時、
④その偉大な日、大地はここで行われたすべての善悪の情報語るが、
⑤それはアッラーが、教えられて命じられたところである。
⑥その日、人々は清算の場所へと集団となって出て来て、かれらの行ったことを見せつけられる。
⑦蟻一匹ほどの重さでも、善を行った者はそれを見る。
⑧蟻一匹ほどの小さな悪をなした人も、それを見る。

100. 進撃する馬章(アル・アーディヤート)

マッカ啓示

本章の趣旨:
人間の強い現世欲を戒めて、来世を想起させ、その道筋を正す

説明:
①アッラーは誓う。吐く息荒く進撃する馬にかけて、
②ひづめが石に力強く当たる時、そこから火花を飛び散らせる馬にかけて、
③暁に敵を急襲する馬にかけて。
④それらは走って砂塵を巻き起こし、
⑤その騎手と共に敵のただ中へ突入する。

本諸節の功德:
●アッラーを恐れることは、僕がかれの満悦を得る原因となる。
●アーダムの子孫たちの行動は、大地によって観察されている。

- ⑥ 人間は、自分の主が望まれる善には、奥手である。
- ⑦ 実際のところそうしていることについて否定できず、かれ自身がその証人である。
- ⑧ また富を強く愛して、けちである。
- ⑨ 世俗欲で惑わされているこの人間は、墓の中のものか掘り出されて、清算と応報のためにアッラーが復活させられることを知らないのか。それは予想を超えるものである。
- ⑩ また意図、信仰など胸の中にあるものが、暴き出される時のことを。
- ⑪ 本当にかれらの主は、その日、かれらについてすべてを知り尽くされている。僕のことでも何もかれに隠せるものではなく、それによってかれらは応報されるのだ。

101. 大打撃章(アル・カーリア)

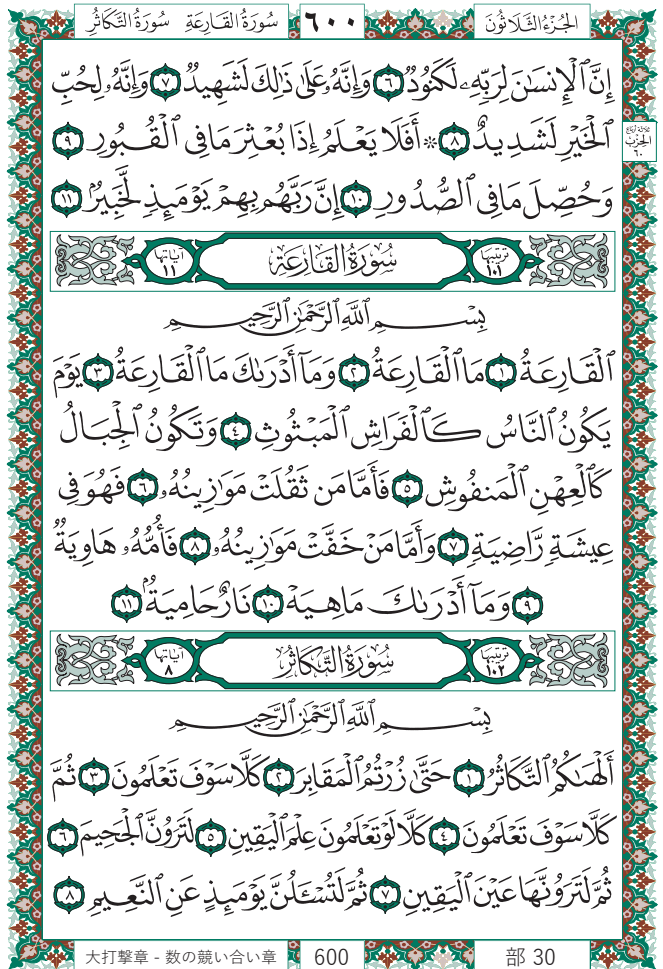
マッカ啓示

本章の趣旨:

最後の審判の日の恐ろしさを、心に強く想起させること

説明:

- ① 大打撃の恐ろしさで、人々の心が震えおののく時、
- ② この大打撃の恐ろしさで、人々の心が震えおののく時とは何か。
- ③ 使徒よ、大打撃の恐ろしさで、人々の心が震えおののく時が何であるかを、あなたに教えてくれるのは何か。
- ④ その日、人々の心は打撃を受けて、飛び散った蛾のようになり、
- ⑤ また山々は軽く動く梳かれた羊毛のようになってしまふ。
- ⑥ その人の秤が善行で重いのなら、
- ⑦ かれは喜びに満ちた楽園の暮らしをするだろう。
- ⑧ だがその人の秤が悪行の方が重いならば、
- ⑨ かれの最後の住まいは地獄。
- ⑩ 使徒よ、それが何であるかを、あなたに教えるものは何か。
- ⑪ それは酷い灼熱の火だ。



102. 数の競い合い章(アッ・タカースル)

マッカ啓示

本章の趣旨:

現世にかまける人に、死と清算を想起させること

説明:

- ① あなた方はアッラーへの帰順を忘れて、財や子供などの多いことを競い合う。
- ② 死んで、墓に入る時まで。
- ③ アッラーへの帰順を忘れてあなたの心をそのようなことで一杯にするのは良くない。やがてあなた方はその結末を知るだろう。
- ④ いや、いや、あなた方はその結末を知るだろう。
- ⑤ いや、アッラーの下に復活されて、清算を受けるという知識があったならば、あなた方が、財や子供などの多いことを競い合うこともなかっただろう。⑥ あなた方は審判の日に、必ず地獄の火を見るだろう。⑦ その時あなた方は、それを見て確信するだろう。
- ⑧ その日あなた方はアッラーに、あなた方の健康、財など授かったものについて必ず問われるであろう。

本諸節の功徳:

- 財や子孫のことで互いに自慢し、有頂天になることの危険性。
- 墓は一時的な訪問の場所で、そこから来世まではあつという間である。
- 審判の日、人々はアッラーが現世で与えられた恩寵について尋ねられる。
- 人は財産を好むように創られている。

106. クライシュ族章

マッカ啓示

本章の趣旨:

アッラーのクライシュ族への恩寵と、それゆえに彼らに課せられた義務

説明:

- ① クライシュ族の慣習とその慣れ親しんだことのため、
- ② 冬イエメンへ、そして夏シリアへ、かれらが旅する安全のため。
- ③ かれらの旅を容易にされた、この家(カアバ)の主(アッラー)だけを奉るように。何ものも、かれに並べて崇拜してはならない。
- ④ 聖地とその住人を敬うアラブ人たちの心ゆえに、アッラーはかれらの飢えには食物を与え、かれらの恐怖には安全を与えられた。

107. 慈善章(アル・マーウン)

マッカ啓示

本章の趣旨:

宗教と来世を嘘呼ばわりする人たちの特徴の説明

説明:

- ① あなたは、審判の日の報いを否定する者を見たか。
- ② それは、困っている孤児を荒々しく追いやり、
- ③ 貧者に食物を与えることを、自分にも他人にも勧めない者。
- ④ 破滅と災いあれ、礼拝者たちに。
- ⑤ かれらは自分の礼拝に気もそぞろ、礼拝時間が過ぎてしまうことも気に留めない。
- ⑥ また人にこれ見よがしに礼拝し、善行に励むが、アッラーのためにするという誠実さが無い。
- ⑦ 善のないことにおいて、他人を援助することを控える者である。

108. 豊潤章(アル・カウサル)

マッカ啓示

本章の趣旨:

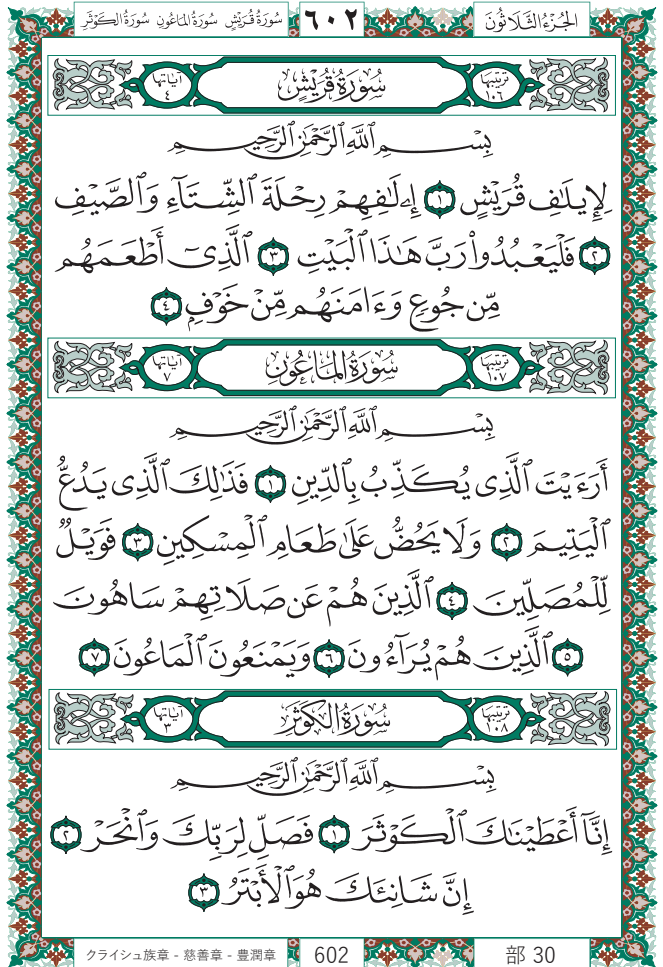
預言者(アッラーの祝福と平安を)に対するアッラーの多くの善、かれを憎悪する者の破綻

説明:

- ① 使徒よ、確かにわれらはあなたに、豊潤な善を授けた。楽園のカウサル川もその一つ。
- ② だからその恩寵に感謝せよ。あなたの主のみに礼拝し、犠牲を捧げるのだ。それは多神教徒たちが、かれらの偶像に捧げる供物とは違う。
- ③ あなたを憎む者は、あらゆる善行とは縁がなく、忘れ去られる。もし言及されても、否定的に言及されるのだ。

本諸節の功德:

- イスラームにおける安全の重要性。
- 人目を気にした崇拜行為や善行は心の病で、それは行いを無効にする。
- 恵みに対して感謝することは、さらに恵みを増やしてくれる。
- 現世と来世における預言者(アッラーの祝福と平安を)に対するアッラーの厚遇、守護、榮譽。



109. 不信仰者たち章(アル・カーフィルーン)

マッカ啓示

سورة الكافرون

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

قُلْ يَا أَيُّهَا الْكَافِرُونَ ❶ لَا أَعْبُدُ مَا تَعْبُدُونَ ❷
وَلَا أَنْتُمْ عِبُدُونَ مَا أَعْبُدُ ❸ وَلَا أَنَا عَابِدٌ مَّا عَبَدْتُمْ ❹
وَلَا أَنْتُمْ عِبُدُونَ مَا أَعْبُدُ ❺ لَكُمْ دِينُكُمْ وَلِيَ دِينِ ❻

سورة النصر

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

إِذَا جَاءَ نَصْرُ اللَّهِ وَالْفَتْحُ ❶ وَرَأَيْتَ النَّاسَ
يَدْخُلُونَ فِي دِينِ اللَّهِ أَفْوَاجًا ❷ فَسَبِّحْ بِحَمْدِ رَبِّكَ
وَاسْتَغْفِرْ لَهُ إِنَّهُ كَانَ تَوَّابًا ❸

سورة المسد

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

تَبَّتْ يَدَا أَبِي لَهَبٍ وَتَبَّ ❶ مَا أَغْنَىٰ عَنْهُ مَالُهُ وَمَا كَسَبَ ❷
سَيَصَلَّىٰ نَارًا إِذَا ذَاتَ لَهَبٍ ❸ وَأَمْرًا تُهْوَىٰ حَمَلَةَ الْخَطَبِ ❹
فِي جِيدِهَا حَبْلٌ مِّن مَّسَدٍ ❺

本章の趣旨:

アッラーのみを崇拜することを肯定し、そこに他のものを並べることから無縁であること。イスラームとシルクの完全な区別。

説明:

- ❶使徒よ、言え。おお不信仰者たちよ、
- ❷わたしは、今も未来もあなた方が仕えるものには仕えない。
- ❸あなた方は、わたしが仕えるものには仕えない。それは、アッラーのみだ。
- ❹またあなた方が仕えてきたものに、わたしは仕えない。
- ❺あなた方は、わたしが仕えるものには仕えない。それは、アッラーのみだ。
- ❻あなた方には、あなた方が創った宗教があり、わたしには、アッラーがわたしに下した、わたしの宗教がある。

110. 援助章(アン・ナスル)

マディーナ啓示

本章の趣旨:

イスラームの勝利と預言者の死期が近づいたことの予兆

説明:

- ❶使徒よ、アッラーの援助が来てあなたの教えが勝利して、栄誉を与えられ、マッカが解放されるとき、
- ❷人々が群れなしてイスラームに入るのを見るときは、
- ❸あなたの遣わせられた責務の終わりが近づいたことを知れ。主を称賛して賛美し、援助と勝利に感謝し、また御赦しを請うように。真にかれは、よく赦されるお方で、僕の改心をよく受け入れて下さる。

111. シュロ章(アル・マサド)

マッカ啓示

本章の趣旨:

不信仰にあっては、家柄も地位も無益なこと

説明:

- ❶預言者(アッラーの祝福と平安あれ)の叔父で、アブドル・ムッタリブの息子であるアブー・ラハブの両手は、その行いの損失と共に、滅びるがいい。かれはいつも預言者(アッラーの祝福と平安あれ)に損害を及ぼし、妨害しようとしていた。
- ❷かれの資産も、子弟も、かれのために役立つ。懲罰に対抗できず、また慈悲をもたらすこともできない。
- ❸審判の日、かれは地獄の火の炎(ラハブ)に入れられて、そこで熱い目にあうのだ。
- ❹かれの妻、ウンム・ジャミールは、いつも預言者(アッラーの祝福と平安あれ)の行く道に茨(いばら)を投げ入れて害を及ぼそうとしたので、やはりそこに入れられる。
- ❺首にはシュロの縄をきつくかけられて、それで地獄へ引き込まれる。

本諸節の功德:

- 不信仰者との明確な区別の必要性。
- 恩寵は感謝を伴うもの。
- シュロ章は預言者の証の一つである。というのは、その中でアブー・ラハブは不信仰者として死ぬことと定められたが、事実10年後に(不信仰者として)亡くなったからである。
- 不信仰者どうしの婚姻(法的)正当性。

112. 純正章(アル・イフラーズ)

マッカ啓示

本章の趣旨:

アッラーは神性と完璧さで唯一であり、あらゆる欠点から無縁であること

説明:

- ①使徒よ、言え、かれはアッラー、唯一なお方。かれ以外に神はいない。
- ②アッラーは完全さと美の属性を極めた主であり、すべての被造物が向かう永遠な存在。
- ③産むこともなければ、産んでもらったわけでもない。かれに称賛あれ、かれには子もなければ、親もいない。
- ④かれに対等なもの、何もないのである。

113. 黎明章(アル・ファラク)

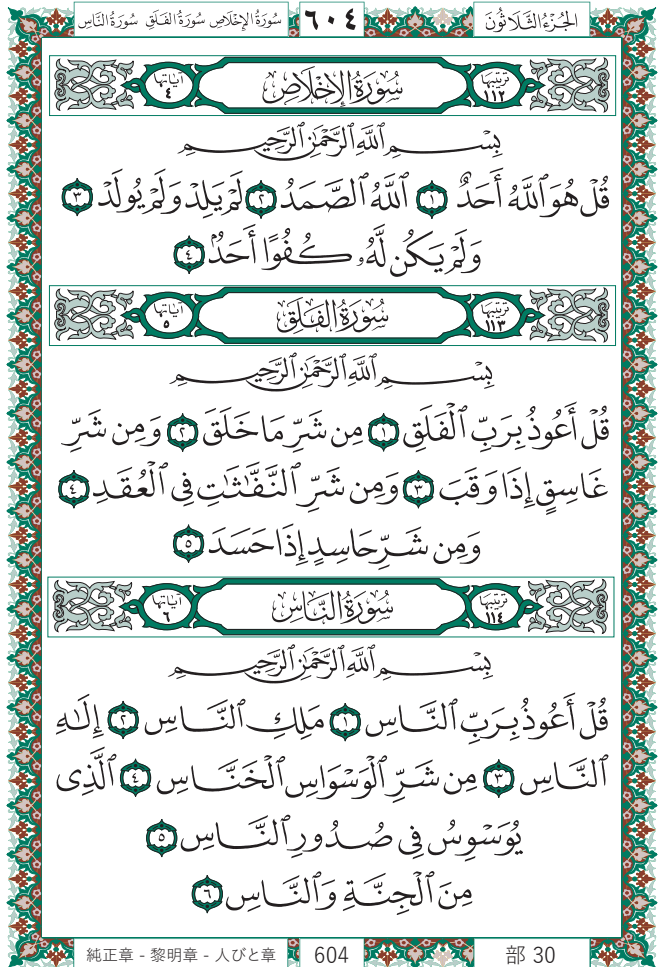
マッカ啓示

本章の趣旨:

外面的悪からアッラーにご加護を求めること

説明:

- ①使徒よ、言え、黎明の主に、わたしは助けを求める、
- ②かれが創られるものの悪から、
- ③夜に出現する害獣や盗人などの悪から、
- ④結び目に息を吹きかける女呪術師の悪から、
- ⑤また、嫉妬する者の嫉妬の悪から。



114. 人々章(アン・ナース)

マッカ啓示

本章の趣旨:

悪魔とそのささやき、及び密やかな悪から、アッラーにご加護を求めること

説明:

- ①使徒よ、言え。人々の主に、わたしは庇護を求め、守護を求める。
- ②人々の王に。かれは、かれらに何でも好きなようにできる方。かれ以外には、かれらに王はいない。
- ③人々の神に。かれ以外に真に崇拝すべきものはいないのだ。
- ④悪魔の悪から、ご加護を求める。それは人がアッラーを失念しているときには心にささやき、アッラーを想念すれば退く。
- ⑤それは人々の心にささやく者である。
- ⑥悪魔はジンでも、人間でもありえる。

本諸節の功德:

- アッラーの完璧さと欠点のなさの強調。
- 魔法の存在の確認とその治療法。
- 悪魔のささやきに対する治療としては、アッラーを思い出し、悪魔からのご加護をアッラーに求めること。